

第16回（平成30年度第1回）  
久留米市セーフコミュニティ推進協議会  
《会議次第》

日時：平成30年5月29日（火）15：30～

会場：久留米商工会館 5階大ホール

1. 開 会

2. 挨拶

3. 協議事項

（1）セーフコミュニティの取り組みについて

①これまでの主な経過と成果

②平成29年度取り組み実績

③平成30年度取り組み方針

《参考資料》個票（具体的施策別）

（2）広報啓発活動について

（3）セーフコミュニティ再認証取得等について

（4）再認証式典及びセーフコミュニティフェスタ2018（案）について

4. 報告事項

（1）平成29年度久留米市セーフコミュニティに関する実態調査の結果について

5. その他

6. 閉 会



みんなで取り組む  
安全安心のまちづくり

久留米市セーフコミュニティ推進協議会 委員名簿(敬称略・順不同)

	団 体 名	氏 名
会長	久留米市	大 久 保 勉
副会長	久留米市	橋 本 政 孝
委員	一般社団法人久留米市交通安全協会	平 岡 常 男
委員	浮羽地区交通安全協会	石 井 勝 則
委員	小郡三井地区交通安全協会	光 安 勝 憲
委員	城島三瀬交通安全協会	宮 下 高 次 郎 ※
委員	久留米安全運転管理連絡協議会	永 淵 俊 毅
委員	久留米商工会議所	本 村 康 人
委員	久留米南部商工会	秋 吉 久 美 子 ※
委員	久留米東部商工会	古 賀 幹 子
委員	田主丸町商工会	小 林 整 子
委員	久留米市農業協同組合	緒 方 友 子
委員	にじ農業協同組合	馬 渡 恵 美 子
委員	みい農業協同組合	井 口 良 子 ※
委員	三瀬町農業協同組合	田 中 ヤ ク 子
委員	福岡大城農業協同組合	佐 藤 理 恵 子 ※
委員	公益財団法人久留米市体育協会	佐 藤 光 義 ※
委員	久留米市私立幼稚園協会	山 村 由 比
委員	一般社団法人久留米市保育協会	森 山 元 喜
委員	久留米市小学校長会	塚 本 秀 二 ※
委員	久留米市中学校長会	佐 野 淳
委員	久留米市小・中学校PTA連合協議会	樋 口 美 穂 ※
委員	久留米市学童保育所連合会	澁 田 由 見 子
委員	久留米市青少年育成市民会議	吉 住 英 男
委員	久留米保護区保護司会	石 橋 力 ※
委員	久留米市老人クラブ連合会	鶴 長 サ ュ ミ
委員	特定非営利活動法人くるめ地域支援センター	物 部 加 奈 代
委員	久留米市身体障害者福祉協会	永 野 清
委員	特定非営利活動法人久障支援運営委員会	古 賀 勝 子
委員	久留米市女性の会連絡協議会	池 田 博 子
委員	久留米市田主丸町地域婦人会連絡協議会	横 溝 敏 子
委員	久留米市北野女性の会	溝 上 ゆ り 子

	団 体 名	氏 名
委員	城島女性ネットワーク	石 川 園 恵
委員	三瀬校区女性の会	立 石 米 子
委員	久留米男女共同参画推進ネットワーク	柳 尾 和 枝
委員	久留米市民生委員児童委員協議会	山 田 三 男
委員	社会福祉法人久留米市社会福祉協議会	川 地 東 洋 男
委員	久留米市地区社会福祉協議会連合会	松 平 信 俊 ※
委員	一般社団法人久留米医師会	北 里 誠 也
委員	一般社団法人浮羽医師会	宮 崎 正 樹
委員	一般社団法人小郡三井医師会	田 中 泰 之
委員	一般社団法人大川三瀬医師会	石 橋 裕 二
委員	公益財団法人久留米市生きがい健康づくり財団	八 尋 幹 夫
委員	久留米大学	石 竹 達 也 ※
委員	聖マリア学院大学	日 高 艶 子
委員	久留米市ボランティア連絡協議会	山 村 秀 敏 ※
委員	久留米市校区まちづくり連絡協議会	古 賀 秀 心
委員	久留米市校区まちづくり連絡協議会（田主丸）	刈 茅 重 信
委員	久留米市校区まちづくり連絡協議会（北野）	有 川 修 二
委員	久留米市校区まちづくり連絡協議会（城島）	堀 正 文
委員	久留米市校区まちづくり連絡協議会（三瀬）	古 賀 文 雄 ※
委員	久留米市防犯協会連合会	富 澤 章
委員	うきは防犯協会田主丸支部	佐 藤 啓 二 ※
委員	久留米市校区暴力追放推進協議会連絡会議	梶 原 靖 ※
委員	特定非営利活動法人日本防災士会久留米支部	田 島 ス マ 子
委員	久留米警察署	西 田 英 徳
委員	うきは警察署	南 谷 聡
委員	久留米広域消防本部	井 上 秀 敏
委員	久留米市消防団	水 田 信 行
委員	久留米労働基準監督署	安 部 勝 彦
委員	久留米児童相談所	待 鳥 ヒ ロ 子 ※
委員	久留米市	森 望
委員	久留米市教育委員会	大 津 秀 明
専門委員	一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構	白 石 陽 子

## セーフコミュニティの取り組みについて

### ① これまでの主な経過と成果

#### 当市のセーフコミュニティの始まり

久留米市では、従前から地域や各種団体、行政などにより安全安心のための活動が行われていましたが、全国的に災害や犯罪、事故などが増加傾向にあり、日常の安全・安心に対する市民の関心が高まる中、平成23年7月に「安全・安心」と「協働の推進」を基本理念とするセーフコミュニティの仕組みを活用して、安全安心のまちづくりを推し進めることにしました。

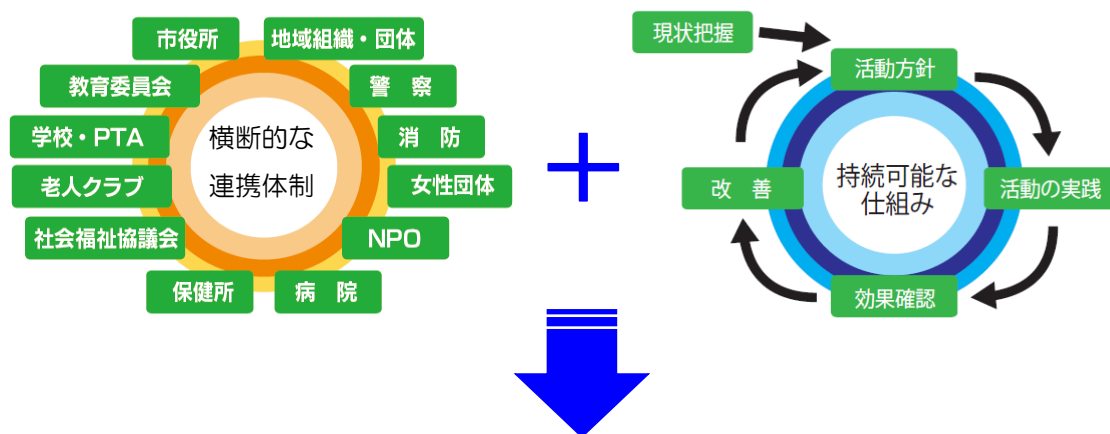
このセーフコミュニティとは、WHO（世界保健機関）が推奨する国際認証で、「けがや事故などは偶然の結果ではなく、予防することができる」という考えに基づいて、予防に重点を置き、地域社会全体で進める安全安心なまちづくりの取り組みや、それを行う地域のことを指します。

#### 国際認証「セーフコミュニティ」の取り組みと認証取得への効果期待

- ・けがや事故の減少により、安全安心が向上すること
- ・安全安心に向けて市民総ぐるみで一体的に取り組むこと（協働）で、人とのつながりが強化されること
- ・統計データ等を用いて客観的な評価・検証をするので、取り組み効果が向上すること
- ・国際認証自治体として、「安全安心のまち久留米」のイメージや知名度が上がること

#### セーフコミュニティの特徴

セーフコミュニティでは、様々な統計データやアンケートなどを活用して、現状把握、課題分析を行い、予防策を講じてその効果を検証し、取り組みの更なる改善を図っていくのが特徴と言えます。



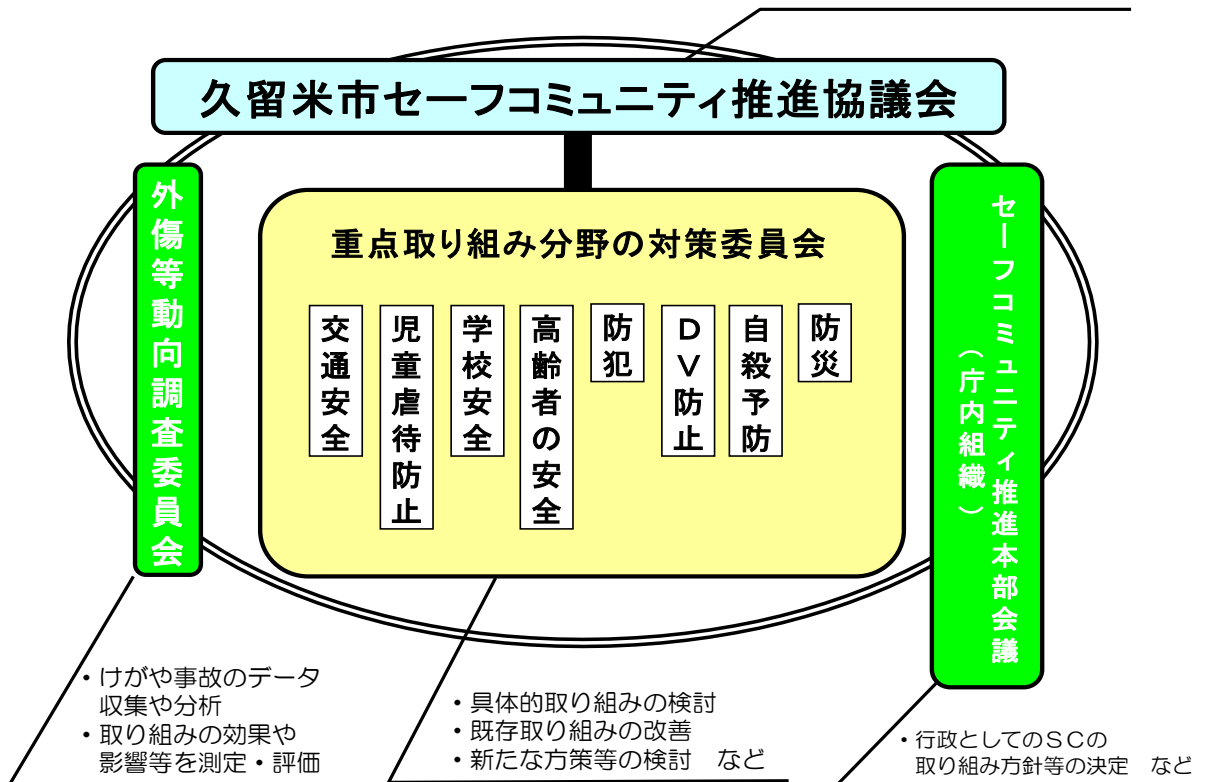
## 安全安心の向上

## 取り組み宣言以降の主な経過

- 平成23年 7月 セーフコミュニティの取り組み宣言
- 平成23年11月～ セーフコミュニティ推進協議会や庁内組織などの組織体制整備  
6つの重点取り組み分野、10の重点取り組み項目などの設定
- 平成24年 3月～ 8つの対策委員会の設置、48具体的施策の決定と実施
- 平成24年 7月 事前指導を受ける
- 平成25年12月21日 国際認証取得（中核市及び九州の自治体で初めて）
- 平成29年 2月 具体的施策の見直し（42事業へ）
- 平成29年10月 再認証取得のための事前指導を受ける
- 平成30年 7月 再認証取得のための現地審査（予定）
- 平成30年12月 再認証記念式典（予定）

## セーフコミュニティ推進体制

- ・SCの基本方針の協議・決定
- ・全市的な連絡調整 など



セーフコミュニティ推進協議会の様子



対策委員会の様子

## セーフコミュニティ活動のこれまでの成果（1）

分野	重点取り組み項目	指標	23年度	29年度
交通安全	高齢者の交通事故防止	高齢者人口1万人あたりの高齢者関連事故発生件数	103.4件	92.1件 <b>10.9%減少</b>
	自転車事故の防止	自転車事故発生件数 (警察統計)	522件	368件 <b>29.5%減少</b>
子どもの安全	児童虐待の防止	赤ちゃんふれあい体験の実施校数	/	8校
	学校の安全	上津小学校のケガ発生件数 (日本スポーツ振興センターの災害給付対象のケガ)	95件	59件 ※H28年度 <b>37.9%減少</b>
高齢者の安全	転倒予防	自宅で転倒した経験のある高齢者の割合	20.4%	13.5% <b>6.9%減少</b>
	高齢者の虐待防止	認知症サポーター養成講座の受講者数	1,133人	3,801人 <b>3.4倍</b>
犯罪・暴力の予防	犯罪の防止・防犯力の向上	一般刑法犯認知件数 (警察統計)	4,590件	2,297件 <b>50.0%減少</b>
		防犯カメラ設置地区と台数 (市設置分)	/	26地区 64台
		青パト活動実施中の校区数	12校区 ※H24年度	40校区 <b>3.3倍</b>
	DV防止・早期発見	デートDV講座の実施校数	6校 541人	9校 1,298人 <b>2.4倍(受講者)</b>
自殺予防	自殺・うつ病の予防	自殺者数	77人	52人 ※H28年 <b>32.5%減少</b>
		こころの相談カフェの相談者数	/	217人
防災	地域防災力の向上	自主防災訓練の開催回数とその参加者数	49回 2,696人	106回 6,473人 <b>2.4倍(参加者)</b>

## セーフコミュニティ活動のこれまでの成果（2）

### 交通安全

- 「交通安全教室」の対象拡大  
小学校に加えて、中学校や市立高校も開催
- 警察署との連携強化  
自転車安全利用キャンペーン、飲酒運転キャンペーン実施  
久留米警察署員へのSC研修の新規実施
- 高校生「自転車マナー」討論会の開催
- 民間企業からの新たな寄付  
交通安全教室用の信号機寄贈

### 子どもの安全

- 上津小学校での取り組みモデルの確立  
児童中心の取組み（校内放送、マップ作成等）  
H29年度から市内全小学校に対象拡大
- 他の対策委員会との連携推進  
登下校時の交通安全対策（パトロール、マップ）  
避難訓練等の学校と地域の合同開催の検討
- 「赤ちゃんふれあい体験」の拡大  
地域コミセンから小中学校でも開催へ拡大
- 「こども子育てサポートセンター」開設  
妊娠から18歳までワンストップ相談

### 高齢者の安全

- 転倒予防啓発の強化  
転倒予防パンフレット作成と啓発ルート増加  
（4年間で24,000部配付）
- 地域での転倒予防・健康づくりの強化  
仲間同士や個人等による地域開催の環境整備  
（専門講師派遣、介護予防サポーターの育成）
- 事業者向け虐待防止研修対象者の拡大  
介護サービス従事者のほか経営者も追加

### 犯罪・暴力の予防

- 青パト活動校区の拡大と連携  
12校区から40校区へ  
活動校区合同での青パトサミットの開催
- 民間企業・個人からの新たな寄付  
青パト（12台）・ドライブレコーダー
- 街頭防犯カメラの設置  
地域管理の防犯カメラの設置（H28年度開始）
- DV早期発見の環境整備  
医師マニュアルの作成・配布と研修会開催

### 自殺予防

- 「久留米方式」の連携拡大  
医師間連携に加え弁護士などとの連携も拡大  
かかりつけ医から精神科医へのつなぎ強化
- 相談窓口の新たな開設  
こころの相談カフェ（岩田屋と市立図書館）  
久留米市生活自立支援センター（市役所内）
- ゲートキーパー研修の受講者増  
対象の順次拡大（理美容師、タクシー組合等）  
市内全46校区開催目標（H29年度末44校済）

### 防災

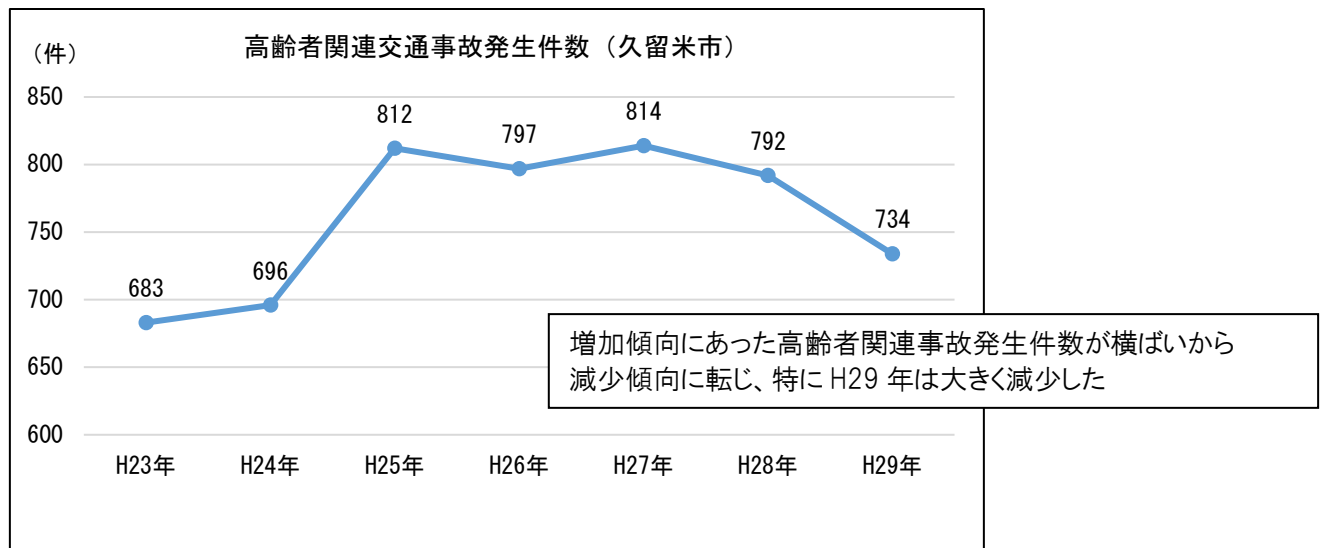
- 地域の自主防災組織の設置促進と活性化  
「防災運動会」の開催や運動会への防災競技追加  
地域主催「防災講演会」や実技型防災研修の開催
- 毎月21日緊急告知FMラジオ起動
- 毎年12月21日情報伝達訓練の実施
- 要援護者名簿を活用した図上訓練の実施
- 校区コミュニティ組織の活動  
校区コミュニティの新たな内部防災会議の設置  
広報紙（全戸配布）による防災対策の啓発

## ②平成29年度取り組み実績

## 交通安全対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
高齢者の交通事故防止	1-①	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施
	1-②	明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施
	1-③	安全安心マップの作成
自転車事故の防止	1-④	交通安全教室の実施
	1-⑤	自転車安全利用キャンペーンの実施

## ア. 成果〈数値で表せるもの〉



## イ. 成果〈数値で表せないもの〉

## 各団体等との継続的な連携による啓発活動

- ・ 防犯対策との連携（青パト団体による反射材の配布）
- ・ 街頭キャンペーンへの協力（自転車商組合等）
- ・ 老人クラブ連合会、医師会、地域包括支援センターとの連携
- ・ 青少年健全育成分野との連携
- ・ 民間企業との連携（講習会への協力、啓発物の提供など）



## ウ. 29年度の取り組みで最も成功した事例

### 高齢運転者の交通事故防止

- ・高齢運転者の交通事故防止を目的とした市の運転免許自主返納支援事業（29年度事業）の周知啓発について、各団体等との連携により効果的に図られ、多くの方が交通安全について考える契機となった。

## エ. 29年度で最も積極的に取り組んだ活動

### 反射材着用の重要性及び高齢運転者事故防止の呼びかけ

- ・反射材の効果を実験するコーナーの継続設置（市役所ロビー）
- ・出前講座等での反射材の効果実演
- ・防犯対策と連携した啓発（青パト活動団体との連携等）
- ・安全運転サポートカーの体験試乗

## オ. 分野横断的に行っていること

### 久留米市交通安全対策協議会を通じた連携

- ・警察をはじめ、各行政機関や関係団体、交通関係事業者等で組織する「久留米市交通安全対策協議会」において、ソフト・ハード面における取り組みを協議しながら、それぞれの役割に応じた活動を行っている。

### 啓発活動における各団体との連携

- ・老人クラブ連合会や医師会、民間企業等と連携し、啓発活動を実施

### 防犯対策、防災対策との連携

- ・青パト活動時の反射材配布、安全安心マップの合同作成

## カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

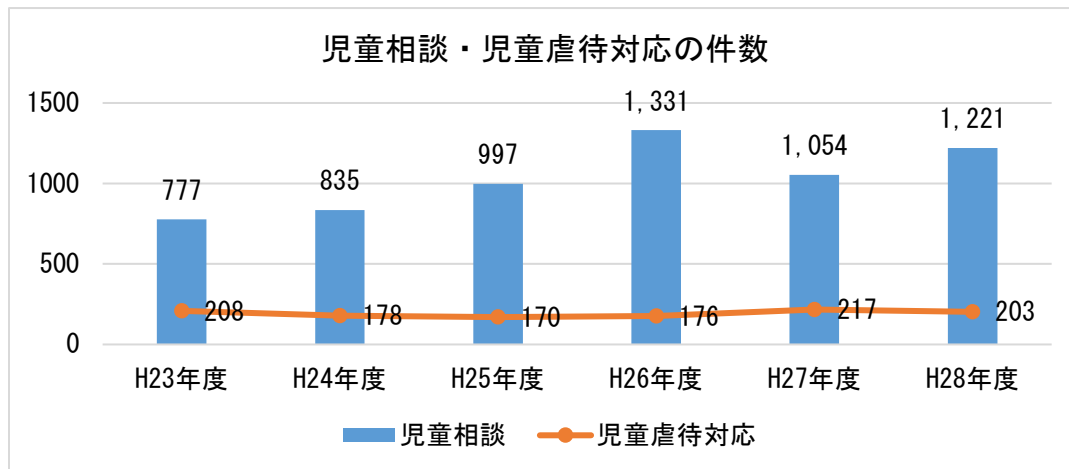
### 高齢者関連事故（被害・加害）防止の対策強化

- ・交通事故発生件数は減少し続けており、高齢者関連事故についても、ここ数年は減少傾向となっている。しかしながら、依然として交通死亡事故に高齢者が関係（被害・加害とも）する割合は非常に高く、歩行中・運転中の両面から、更に対策を強化する必要がある。

# 児童虐待防止対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
児童虐待の防止	2-①	新生児訪問事業の地域連携
	2-②	赤ちゃんふれあい体験事業
	2-③	児童虐待防止啓発事業

## ア. 成果〈数値で表せるもの〉



### 赤ちゃんふれあい体験後の生徒の意識向上と変化

- ・体験終了後の生徒へのアンケートで、命の大切さについて 95.8%の生徒が実感したと回答している。

## イ. 成果〈数値で表せないもの〉

### 赤ちゃんふれあい体験後の生徒の意識の変化

- ・体験終了後の生徒へのアンケートで、以下の声が聞かれ、期待した効果が出ている。  
(アンケートに寄せられた声)
- ・赤ちゃんは、とても小さくて、柔らかくて、ちょっとしたことで壊れてしまいそう…。でも、とてもあたたかくて、重さもあって、「ああ、生きているんだな…」と感じた。
- ・将来、自分の子どもができれば、しっかり大切に育て、いい子どもに育てたい。



赤ちゃんふれあい体験

## ウ. 29年度の取り組みで最も成功した事例

### 学生との連携・協働による啓発活動の充実

- ・久留米大学生によるオレンジリボンキャンペーンの取組
- ・マナビ일랜드では、子どもと学生によるオレンジメダルの作製を通し、普及啓発を図った。
- ・街頭キャンペーンで、学生による児童虐待防止の普及啓発を行った。
- ・久留米大学学園祭（あのか祭）で、来場者に児童虐待防止の啓発を行った。

### 啓発活動における各団体との連携

- ・オレンジリボンキャンペーンでは、要保護児童対策地域協議会の関係団体が参加し、街頭キャンペーンを実施した。



マナビ일랜드



街頭キャンペーン

## エ. 29年度で最も積極的に取り組んだ活動

### 子どもの理解を深めるための連続講座

- ・児童虐待を防止するために、福岡県久留米児童相談所、民間団体、久留米市の3者による協働事業の講演会を連続開催。29年度は、「新しい家族のカタチ」をテーマに里親制度について講座を開催し、学ぶ機会を提供した。



連続講座

## オ. 分野横断的に行っていること

### 要保護児童対策地域協議会との連携

- ・警察や児童相談所などの22の関係団体で構成する要保護児童対策地域協議会の代表者会議や実務者会議等を通して、児童虐待防止の取り組みを行っている。

## カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

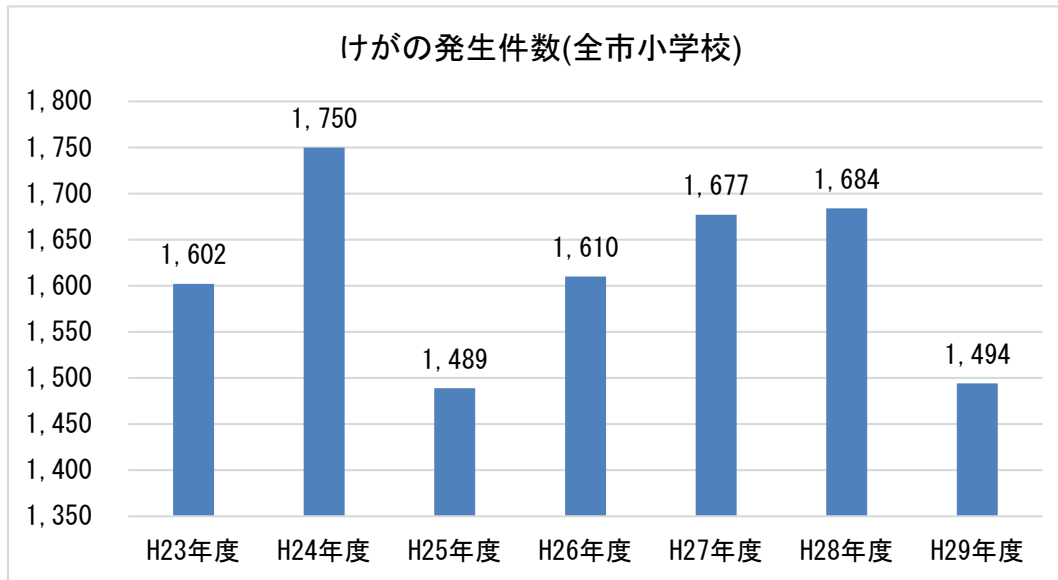
### 虐待防止における成果指標の設定

- ・短期、中期、長期指標について、虐待の防止という成果がこれらの指標に示された数字だけでは図れない部分があり、関連性を実証するのが難しい。

# 学校安全対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
学校の安全	3-①	《学校内の安全指導》 校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の実施
	3-②	《学校内の安全指導》 校舎外で安全に遊ぶ意識付けと実践化を図る取組の実施
	3-③	《学校内の安全指導》 いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施
	3-④	《学校内の安全指導》 火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施
	3-⑤	《登下校・放課後の安全指導》 交通安全教育の実施
	3-⑥	《登下校・放課後の安全指導》 地域・保護者と連携した交通指導の実施
	3-⑦	《登下校・放課後の安全指導》 防犯教育の実施
	3-⑧	《登下校・放課後の安全指導》 地域・保護者と連携した防犯の取組の実施

## ア. 成果〈数値で表せるもの〉



※出典は「日本スポーツ振興センター災害給付対象けがの件数」

## イ. 成果〈数値で表せないもの〉

### 子どもたちの防災に対する意識の向上

- ・学校で火災や地震が起きた時の避難の仕方を理解し、避難訓練に真剣に取り組む子ども達が増え、災害時に落ち着いて避難することに対する自信が高まっている。

## ウ. 29 年度の取り組みで最も成功した事例

### けが予防への意識の向上

- ・各学校の児童による委員会活動において、安全委員会が校内安全マップを作成したり、保健委員会がけがで保健室を利用した人数をグラフ化して廊下に掲示したり、放送委員会が毎月 21 日のセーフコミュニティの日に学校の安全を呼びかける放送を流したりするなど、子ども達が自分たちで安全について呼びかける活動の活性化により、けがの予防に対する意識が高まった。



全校集会で児童会による安全な過ごし方の提案

## エ. 29 年度で最も積極的に取り組んだ活動

### 校舎内で安全に過ごすための知識、意識、態度を高める取組

- ・校舎内でけがの多い場所、時間帯などを調べ、それをもとに、校内安全マップを作成したり、廊下や階段の安全な通り方を呼びかけたりした。  
(本取組を重点として取り組んだ学校は市内 4 6 校中 2 3 校で、学校の安全 8 施策の中で一番多かった。)

## オ. 分野横断的に行っていること

### ハード整備による通学路の安全確保

- ・学校教育課が主管となって、安全安心推進課、道路整備課、路政課、警察や国・県等と連携した久留米市通学路安全推進会議を開催し、通学路の安全確保について協議を行い、その結果をハード整備にもつなげている。

## カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

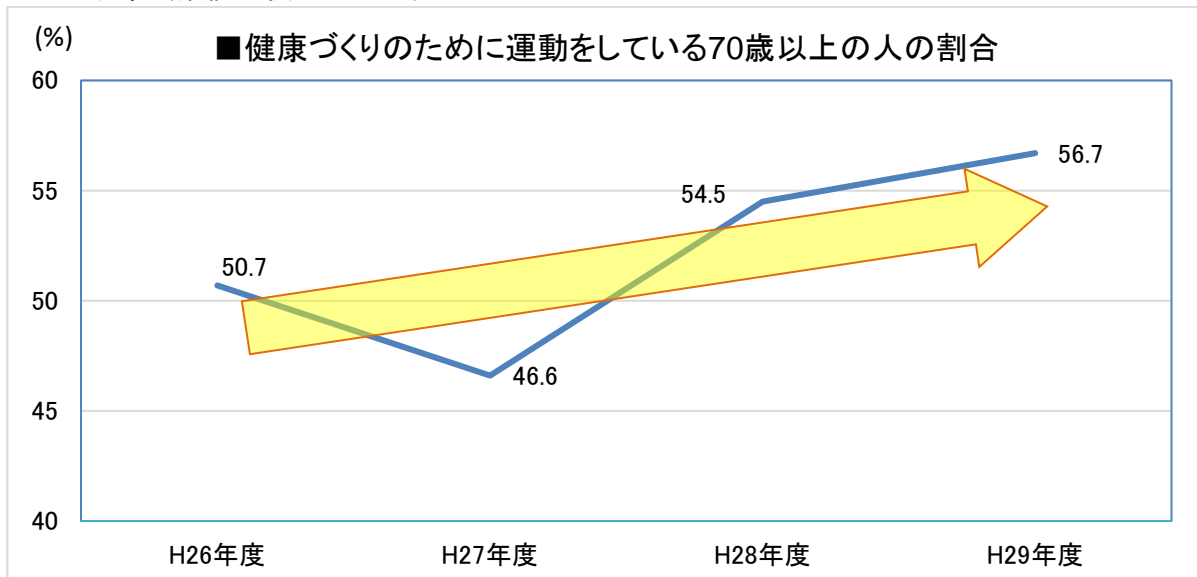
### 各学校の実情を踏まえた取り組みのさらなる展開

- ・平成 25 年度から、セーフコミュニティ「学校の安全」のモデル校である上津小学校で成果を上げた取組や平成 29 年度から行っている取組を、各学校の実態に応じた取組の中に反映させていくこと。

# 高齢者の安全対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
転倒予防	4-①	転倒予防に関する普及・啓発
	4-②	転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防
高齢者の虐待防止	4-③	虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催
	4-④	介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修
	4-⑤	地域で高齢者を見守るネットワークの構築

## ア. 成果〈数値で表せるもの〉



## イ. 成果〈数値で表せないもの〉

### 認知症に対する理解の促進

- ・ 認知症の人やその家族等に対して、地域で認知症の人を支える取り組みなどをテーマにした講演会を行うことで、虐待防止のための意識の啓発を行った。



認知症予防地域講演会

## ウ. 29年度の取り組みで最も成功した事例

### 専門職による介護予防サポーター養成講座の実施

- ・地域における介護予防の取り組みが推進されるよう、介護予防の重要性やみんなのできる運動等について、専門職が講座を実施し、介護予防サポーターを養成することで、仲間同士や個人で介護予防に取り組む意識の醸成に寄与できた。

※介護予防サポーター養成講座：修了者数290人

#### 【介護予防サポーター】

介護予防の意義を理解し、自身で又は仲間同士で助け合いながら、継続的な介護予防に進んで取り組むとともに、家族・友人などの身近な人に対し、介護予防事業等の普及・啓発を行う。



介護予防サポーター養成講座

## エ. 29年度で最も積極的に取り組んだ活動

### 介護予防のための地域への積極的な専門講師の派遣

- ・市が、地域の高齢者団体などを対象に、介護予防に関する専門講師を派遣することで、介護予防の重要性などを普及啓発し、地域における自主的・継続的な介護予防の取り組みが広がった。

	H28年度	H29年度
おたっしや出張講座	回数：142回 参加者数：延2,996人	回数：175回 参加者数：延3,315人
ドレミで介護予防	回数：72回 参加者数：延962人	回数：92回 参加者数：延1,575人
にこにこステップ運動 &スロージョギング	回数：25回 参加者数：延370人	回数：60回 参加者数：延1,013人

## オ. 分野横断的に行っていること

### 認知症に対する理解の広がり

- ・パトロール中に認知症による行方不明高齢者等に気づき、保護できるよう、青パト活動団体が自主的に「認知症サポーター養成講座」を受講している。

### DV防止対策委員会との連携

- ・連携会議を開催し、効果的な連携のあり方について協議を行っている。

### 「くるめ見守りネットワーク」の実施

- ・高齢者をはじめとする全ての市民が、地域において孤立することなく安心して暮らすことができるよう、「くるめ見守りネットワーク」を実施し、行政と地域や事業者が連携・協力して地域全体で見守り活動に取り組んでいる。

## カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

### 「溺死・溺水」に対する取り組み

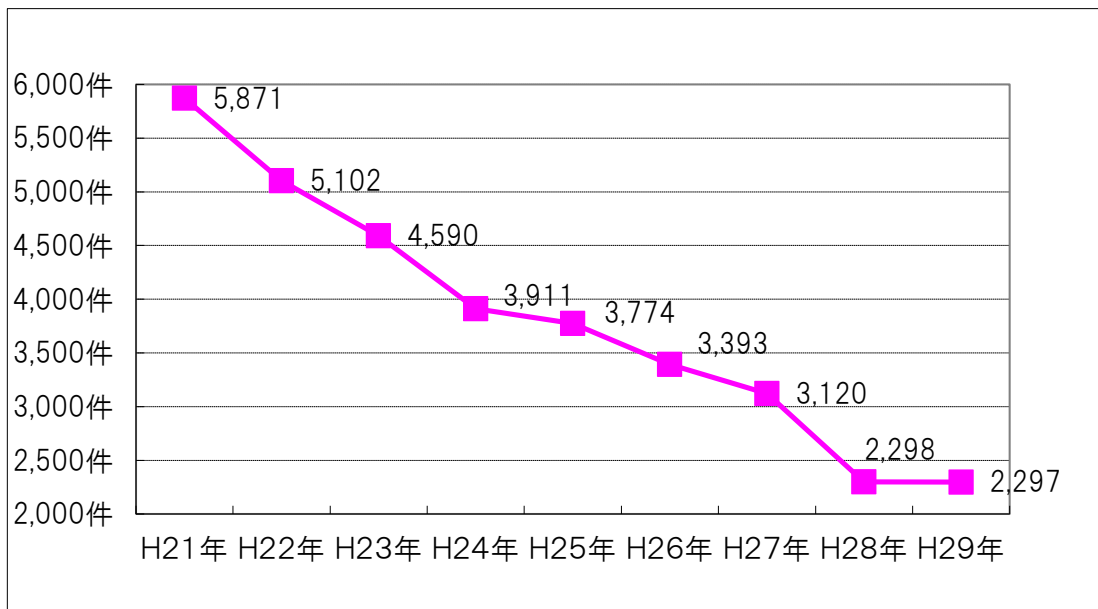
- ・事前指導の講評において指摘された「溺死・溺水」に関する取り組みについて、研究・検討を行う必要がある。

# 防犯対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
犯罪の防止・ 防犯力の向上	5-①	自転車ツーロックの推進
	5-②	青パト活動団体の拡大・連携強化
	5-③	安全・安心感を高めるための地域環境の整備
	5-④	暴力団壊滅市民総決起大会等の開催
	5-⑤	児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施
	5-⑥	犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発

## ア. 成果〈数値で表せるもの〉

### ①一般刑法犯認知件数



### ②青パト活動団体の拡大

平成 28 年度末：21 校区 → 平成 29 年度末：40 校区 （19 校区の増）

## イ. 成果〈数値で表せないもの〉

### 地域自主防犯活動団体に対する支援の広がり

- ・セーフコミュニティ及び自主防犯活動の趣旨に賛同される企業から青パト 1 台寄贈

### 青パト活動団体の他分野との連携

- ・パトロール中に認知症による行方不明高齢者等に気付いて保護できるよう、青パト活動団体が自主的に「認知症サポーター養成講座」を受講



## ウ. 29年度の取り組みで最も成功した事例

### 地域自主防犯活動の活性化

- ・市校区青パト活動支援事業及び企業の車両寄贈により、青パト活動団体が21校区から40校区に拡大。これを機に市内の青パト活動団体を集めた「くるめ青パトサミット」を開催し、一部団体が認知症サポーター養成講座を受講するなど、活動の充実につながった。

## エ. 29年度で最も積極的に取り組んだ活動

ウ. に同じ

## オ. 分野横断的に行っていること

### 対策委員会との連携

- ・青パト活動団体によるパトロール中の反射材配布【交通安全】
- ・自転車安全利用と連携した自転車ツーロックの街頭啓発【交通安全】
- ・交通安全、防災と連携した校区安全安心マップ作成の取り組み【交通安全】【防災】

### 関係団体との連携

- ・特殊サギ防止対策【消費生活センター、高齢者関係部局、老人クラブ連合会など】

## カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

### 活動の持続・充実を図るための体制づくりと団体相互の連携

- ・青パトによる地域自主防犯活動は拡大しており、更に全校区での青パト活動実施を目指していくが、その効果を高めるためには、今後、各団体が持続的に活動できるような体制づくりと活動の充実、団体相互の連携を進めていく必要がある。

### 犯罪防止に向けたタイムリーな犯罪発生状況の発信

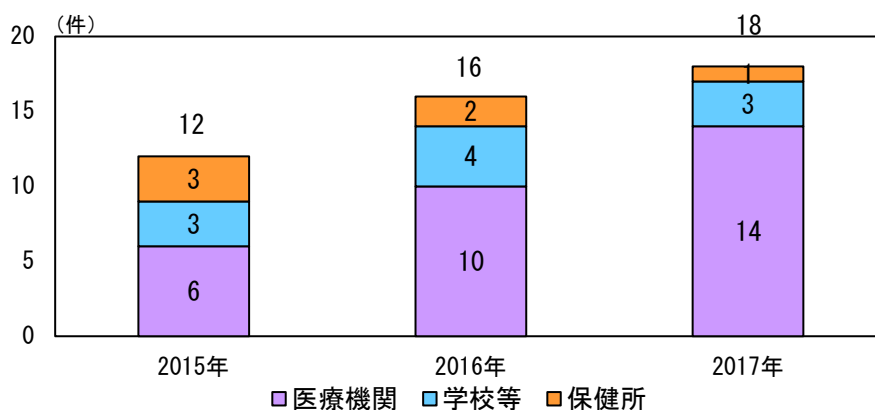
- ・地域自主防犯活動の活性化、街頭防犯カメラや防犯灯の設置による防犯環境の整備が進んでいるものの、平成29年中の街頭犯罪認知件数は前年より増加(+79件)している。「車上狙い(+90件)」がその一因であるが、市民一人ひとりが注意することで防げるケースもあるため、タイムリーな犯罪発生状況を発信していかなければならない。

# DV 防止対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
DV防止・早期発見	6-①	男女共同参画・DV防止に関する啓発の充実
	6-②	教育現場等における予防教育の充実
	6-③	パープルキャンペーンの実施
	6-④	医療関係者に対する研修の強化
	6-⑤	子どもに関わる業務に携わる職務関係者に対する研修の充実

## ア. 成果〈数値で表せるもの〉

子どもに関わる職務関係者から相談につながった件数



出典：久留米市男女平等推進センター統計

※H27年度から調査開始。H27年度は男女平等推進センターのみ

## イ. 成果〈数値で表せないもの〉

### 関係機関や人を通じた相談窓口の情報提供

- 様々な広報・啓発により、相談窓口についての認知が広がり、身内・友人・知人や公共機関、医療機関、弁護士等を介して相談につながってきている。

DV防止カード



## ウ. 29年度の取り組みで最も成功した事例

### パープルツリーの展示に伴うパープルキャンペーンの実施

- パープルツリーの展示により、広く「女性に対する暴力をなくす運動」の中で、DVの防止とパープルリボンの普及啓発が図れた。
- 対策委員会委員との協働で、街頭キャンペーンを実施する等、対策委員会の連携とパープルリボンの普及啓発が図れた。

## エ. 29年度で最も積極的に取り組んだ活動

### 男女共同参画サポーターによる地域啓発講座の実施

- ・新たな取り組みとして、市民自らが講師となり地域への啓発活動を行う「男女共同参画サポーター」を校区コミュニティセンター等10カ所に派遣。DVが起こる原因・背景である固定的性別役割分担意識の解消に向けて市民への啓発を行った。

### 福岡県美容生活衛生同業組合への「DV防止カード」設置依頼

- ・多くの女性が定期的に利用する美容室に着目し、福岡県美容生活衛生同業組合に「DV防止カード」の設置を依頼し、市内の美容室に設置する方向で調整を始めた。

### パープルツリーの展示に伴うパープルキャンペーンの実施

- ・パープルキャンペーンの拡充に取り組み、パープルツリーの設置とともに、ツリーに飾るためのパープルリボンを対策委員会委員と、民間支援団体、学生等で作製する等協働で行い、パープルツリーを通して、多くの方にDV防止を啓発することができた。



サポーターによる地域啓発講座



街頭キャンペーン



パープルツリー

## オ. 分野横断的に行っていること

### 高齢者の安全対策委員会との連携

- ・連携会議を開催し、効果的な連携のあり方について協議

### 児童虐待防止対策委員会との連携

- ・オレンジ&パープルリボンを作製し、講座等で配布

### 相談関係機関ネットワーク会議

- ・相談支援に関する関係部局、関係機関、民間支援団体との連携

## カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

### 若年層の意識の向上

- ・子どもの発達段階に応じた固定的性別役割分担意識にとらわれない考え方や暴力を容認しない意識づくりをさらに進めていく必要がある。

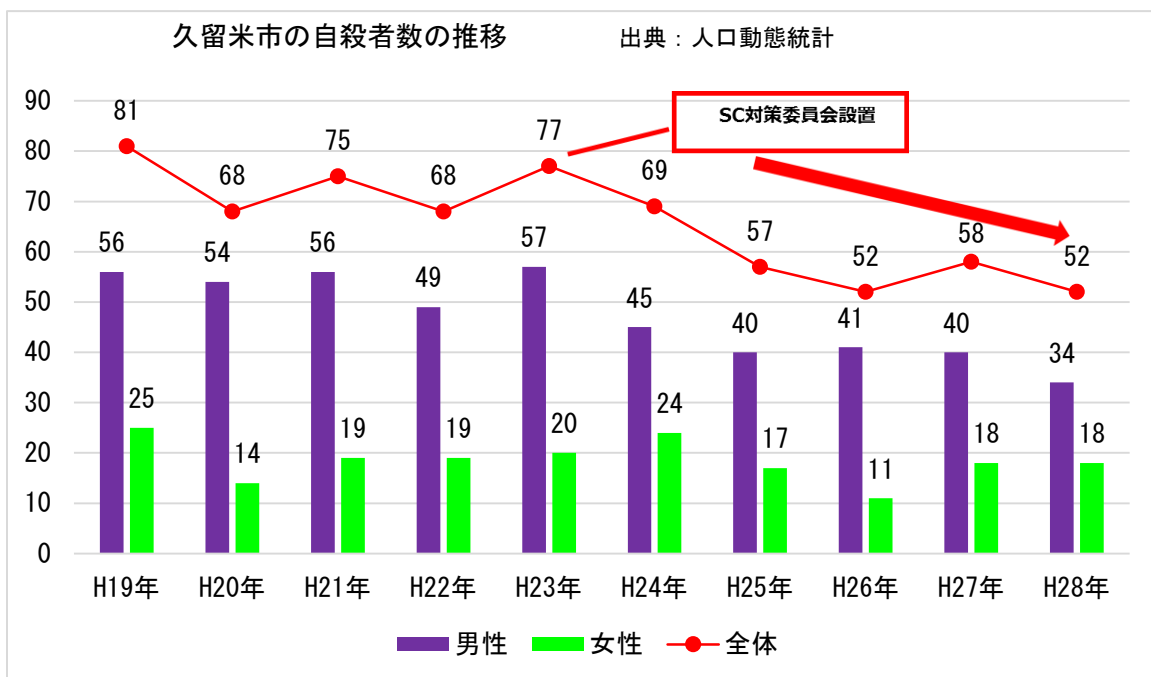
### DV被害者を孤立させないためのアプローチ

- ・「DV防止カード」の設置拡大やパープルリボンの普及啓発により、DV被害者が孤立することがないように効果的な情報提供を推進していく必要がある。

# 自殺予防対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
自殺・うつ病の予防	7-①	ゲートキーパー研修
	7-②	かかりつけ医と精神科医の連携強化
	7-③	自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施
	7-④	民間団体と協働した相談の実施
	7-⑤	生活困窮者からの相談支援

## ア. 成果〈数値で表せるもの〉



## イ. 成果〈数値で表せないもの〉

### かかりつけ医・精神科医の顔に見える関係づくりとネットワークの強化

- ・「かかりつけ医と精神科医の連携システム」としての認知が広がっている。

### ゲートキーパー啓発活動の広がり

- ・地域におけるゲートキーパーの認識が深まった。市民団体の活動も継続しており、ゲートキーパー啓発冊子の作成や講演会の開催など、自主的な活動が広がっている。

### 関係団体との連携強化

- ・関係団体の街頭啓発キャンペーン等への、協力機会が増加した。

### 相談体制の拡充

- ・より市民が利用しやすい相談窓口を増設するなど、相談体制が拡充された。

## ウ. 29年度の取り組みで最も成功した事例

### 新たな相談窓口の開設による利用層の拡大

- ・心の悩みや不安を抱える市民の身近な相談窓口として、岩田屋久留米店にて、臨床心理士等が対応する相談窓口を開設。29年度より自殺者の多い中高年男性も利用しやすいよう、久留米市立中央図書館にも窓口を増設し、相談を受け付けたことにより、男性利用者の増加につながった。

### 医療・福祉・就労支援との連携による相談者の環境改善

- ・生活自立支援センターにおいて、自殺企図、希死念慮の相談者の個別の相談に応じ、医療や福祉の関係機関と連携し、不安を和らげるとともに、就労支援等の関係機関とも連携し、相談者の環境改善を図った。



ココロの相談カフェチラシ

## エ. 29年度で最も積極的に取り組んだ活動

### ゲートキーパーの研修・啓発

- ・あらゆる機会を捉え、市民の身近な場所に向く出前講座などを通して、ゲートキーパーの養成と啓発を図った。

### ゲートキーパー啓発しおり作成

- ・対策委員会での意見を基に、啓発のためのしおりを作成し、その配布等について、書店との調整を図った。



ゲートキーパー啓発しおり

## オ. 分野横断的に行っていること

### 効果的なゲートキーパー研修の実施

- ・労政課等、雇用弱者と接する機会の多い職員に対し、ゲートキーパー研修を実施

### 関係機関等と連携した相談機会の提供と対応

- ・司法書士会やハローワークと連携した相談会の開催、民間団体への相談窓口の委託
- ・生活自立支援センターの相談者は、複数の課題を抱えていることが多く、様々な関係機関と連携し、分野横断的な対応を図っている。

### 関係団体等と連携した啓発

- ・市立図書館や大学図書館などにおける自殺対策啓発パネル展示を実施
- ・自殺予防対策委員会及び自殺対策連絡協議会構成団体と協働した啓発活動の実施



ポスター・相談カードの設置



街頭キャンペーン

## カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

### 中高年男性への取組とゲートキーパーの浸透

- ・中高年男性の自殺者減少への取組み
- ・正しい知識を持つ市民の増加、ゲートキーパーの認知度上昇

### 支援体制の充実

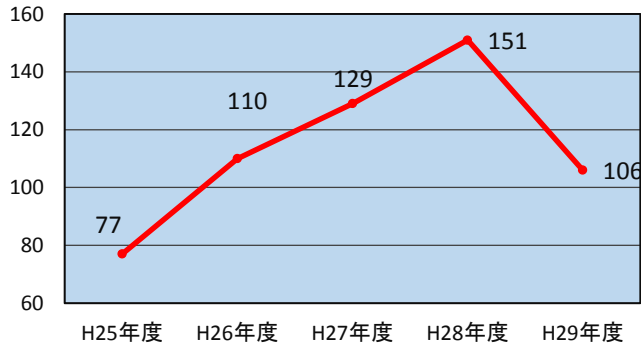
- ・適切な医療や支援を受けられる体制の整備
- ・地域の相談体制の更なる充実

# 防災対策委員会

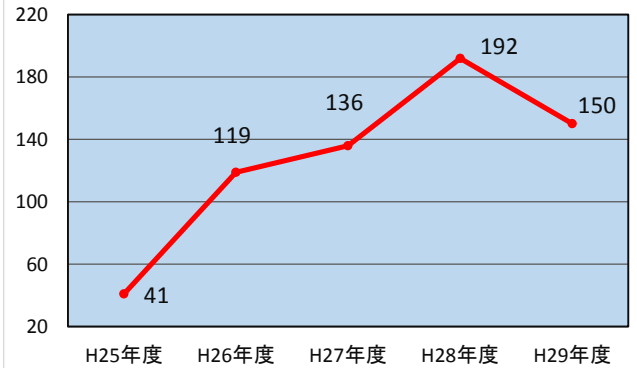
重点取り組み項目	No	具体的施策名
地域防災力の向上	8-①	定期的な防災研修・訓練・啓発の実施
	8-②	防災に精通しているリーダーの育成
	8-③	名簿登録推進にむけた積極的な情報提供
	8-④	災害時要援護者個別支援計画作成
	8-⑤	地域の避難計画を作成

## ア. 成果〈数値で表せるもの〉

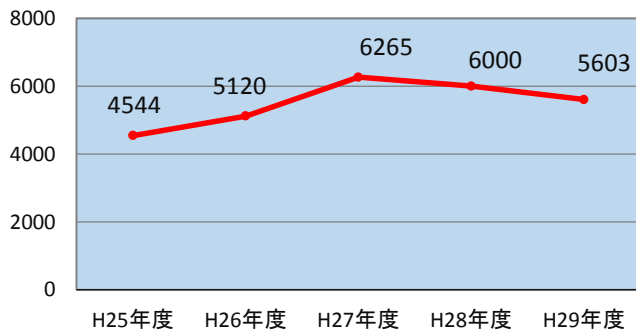
### 自主防災訓練・研修実施回数



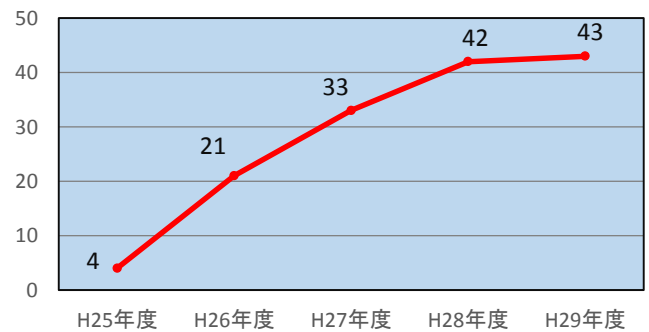
### 防災リーダー研修会参加者数



### 災害時要援護者名簿 登録者数



### 図上訓練実施済校区数



## イ. 成果〈数値で表せないもの〉

### 防災情報伝達訓練の実施（年2回：6月3日、12月21日）

- ・緊急告知防災ラジオ、防災メールまもるくん及び久留米市防災行政無線を活用し、久留米市から水害や地震を想定した防災情報を市内一斉に伝達し、各自主防災組織においては受信した情報を自主防災役員に伝達するなどの校区内伝達訓練を実施した。  
訓練成果として、ラジオ自動起動の確認及びメール登録促進を図り、地域での防災体制の確認・検証を図ることができた。



避難所設置運営訓練

### 地域が主体的に取り組む多種多様な訓練の実施

- ・「避難所設置運営訓練」津福校区自主防災会、11月23日  
避難者受入、レイアウト等の訓練・検証を実施
- ・「避難所運営ゲーム（HUG）」犬塚校区、大城校区など様々な事情が書かれた避難者カードを避難所の平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを疑似体験するゲームを通じて、地域における課題を考えるきっかけ作りができた。

## ウ. 29年度の取り組みで最も成功した事

### 防災士資格取得のための養成講座の開催

- ・各校区3名以上の防災士の確保を目標とし、継続的に養成を実施するもの。  
（平成28年度：9名受講 ⇒ 平成29年度：24名受講）

## エ. 29年度で最も積極的に取り組んだ活動

### 防災リーダーの育成のための各種研修会の開催

- 防災リーダー研修会（150名受講 8月、12月開催）  
（内容）・自主防災活動の取組事例の紹介（講師：津福校区防災士）
  - ・自主防災活動の活性化について（外来講師による講演）
  - ・避難所運営ゲーム（グループワーク）・クロスロード（グループ討議）
- 防災士スキルアップ研修会（67名受講 2月10日開催）  
（内容）・防災士としての地域での取組事例紹介（講師：青木校区防災士）
  - ・避難所運営における課題（グループ討議）
  - ・大雨時の避難判断について（気象庁によるワークショップ）



防災士スキルアップ研修会

## オ. 分野横断的に行っていること

### 庁内外と連携した防災啓発活動の実施

- ・防災対策課、地域福祉課、久留米広域消防本部による自主防災研修
- ・防災対策課、地域福祉課による災害時要援護者図上訓練
- ・防災対策課、安全安心推進課による地域の防災マップ作成指導

## カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

### 防災リーダーによる地域における主体的活動の実施

- ・地域防災力を向上するためには、地域での防災活動の中心を担う人材が必要なため、防災士の養成や防災リーダー研修などにより人材の育成に努めているが、そういった人材が地域の防災活動を主体的に実施できるには至っていない。

## ③平成30年度取り組み方針

## 交通安全対策委員会

具体的施策		30年度取り組み方針
1-①	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施	<p><u>体験型交通安全講習を受ける機会の拡大</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各校区コミュニティ組織等との連携</li> <li>・交通安全指導員、ボランティア等による地域での自主活動の促進（指導員等への情報提供の充実）</li> </ul> <p><u>高齢者が交通事故の加害者とならないための啓発</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ組織や老人クラブ連合会、関係機関との連携</li> <li>・運転免許の自主的な返納に関する啓発等</li> </ul>
1-②	明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施	<p><u>反射材着用等の重要性を知る機会の拡大</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なキャンペーンの実施</li> <li>・周知広報の充実</li> </ul> <p><u>防犯対策委員会との連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青バト活動団体等との連携</li> </ul>
1-③	安全安心マップの作成	<p><u>他の対策委員会と連携したマップの作成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分野横断的なマップ作成（防犯、防災）</li> </ul> <p><u>コミュニティ組織や校区の関係団体との連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校区コミュニティ組織や校区の交通安全協会・防犯協会、学校、PTA等との連携</li> </ul> <p><u>作成したマップを活用した各種取り組み強化・環境改善</u></p>
1-④	交通安全教室の実施	<p><u>中学生・高校生への交通安全教育の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学校、高校への働きかけ（防犯教室や非行防止教室との連携等）</li> </ul>
1-⑤	自転車安全利用キャンペーンの実施	<p><u>マナー・ルールを知る機会の拡大</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なキャンペーンの実施</li> <li>・周知広報の充実</li> </ul> <p><u>他分野との連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯分野（自転車ツーロック）との連携</li> <li>・交通政策部門（ハード整備含む）との連携</li> </ul>



# 児童虐待防止対策委員会

具体的施策		30年度取り組み方針
2-①	新生児訪問事業の地域連携	<u>新生児家庭への同行訪問の拡大</u> ・民児協の主任児童委員部会、市（こども子育てサポートセンター）による協議を行いながら、同行訪問の拡大を図る。
2-②	赤ちゃんふれあい体験事業	<u>「赤ちゃんふれあい体験」実施校の拡大</u> ・実施校の拡大に向け、取り組みの手法について検討を進める。
2-③	児童虐待防止啓発事業	<u>児童虐待防止と相談窓口のさらなる周知</u> ・児童虐待防止の認識と子育てに関する相談窓口等を、一層多くの市民に周知するために、実施内容等の検討を進める。

# 学校安全対策委員会

具体的施策		30年度取り組み方針
3-①	《学校内の安全指導》 校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の実施	<u>校舎内で安全に過ごすための知識、意識、態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>廊下の通り方や雨の日の過ごし方のめあての設定(42校)</li> <li>委員会児童による校内安全啓発ポスターや標語の掲示(37校)</li> <li>けがで保健室を利用した人数や場所をグラフ化し掲示(27校)</li> <li>全校朝会等でけがの件数の報告と安全啓発(26校)</li> <li>セーフコミュニティの日の掲示、校内放送(15校)等</li> </ul> ★重点取組校(20校)
3-②	《学校内の安全指導》 校舎外で安全に遊ぶ意識付けと実践化を図る取組の実施	<u>校舎外で安全に過ごすための知識、意識、態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校で統一した外遊びのルールづくりと啓発活動(39校)</li> <li>委員会から安全な遊びの紹介(放送やVTR)(31校)</li> <li>委員会から運動場でのけが状況の変化を報告(22校)等</li> </ul> ★重点取組校(1校)
3-③	《学校内の安全指導》 いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施	<u>いじめについての理解やいじめをしない、させない、許さない態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめに関するアンケートの実施(毎月)(46校)</li> <li>いじめの認知や対応の仕方についての教職員研修の実施(46校)</li> <li>ネットいじめに関する親子学習会の実施(14校)等</li> </ul> ★重点取組校(18校)
3-④	《学校内の安全指導》 火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施	<u>災害時の避難についての知識や安全に避難する態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>火災や地震、風水害の避難訓練、下校訓練の実施(46校)</li> <li>防災に関する学習の実施(視聴覚教材の活用、防災センター等の体験活動)(46校)</li> <li>着衣水泳の実施(46校)等</li> </ul>
3-⑤	《登下校・放課後の安全指導》 交通安全教育の実施	<u>交通ルールの知識や、ルールを守る意識・態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や関係機関、地域団体と連携した交通教室の実施(46校)</li> <li>交通安全についての学習の実施(46校)</li> <li>ヘルメット着用の啓発活動(2校)等</li> </ul> ★重点取組校(2校)
3-⑥	《登下校・放課後の安全指導》 地域・保護者と連携した交通指導の実施	<u>学校・地域・保護者が連携した地域の交通安全上の危険箇所に対する理解、交通ルールを守る意識や態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員による朝の挨拶運動や朝の交通指導の実施(46校)</li> <li>危険箇所等におけるPTAや地域団体、青パトによる安全指導(46校)</li> <li>学校や地域が協働で安全マップを作成や配布(33校)等</li> </ul> ★重点取組校(4校)
3-⑦	《登下校・放課後の安全指導》 防犯教育の実施	<u>不審者対処法についての理解や実践的態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロールプレイ等を取り入れた防犯教室の実施(46校)</li> <li>防犯についての指導の実施(全校朝会や特別活動)(46校)</li> <li>防犯のキーワード「いかのおすし」の校内掲示(2校)等</li> </ul>
3-⑧	《登下校・放課後の安全指導》 地域・保護者と連携した防犯の取組の実施	<u>学校・地域・保護者が連携した防犯上の危険箇所に対する理解や実践的態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>「校区安全マップ」を活用し、危険箇所に重点を置いた防犯パトロールの実施(46校)</li> <li>子ども110番の家の設置促進(42校)</li> <li>防犯に関する学習会の実施(18校)等</li> <li>学校メールを活用した不審者情報の共有(12校)</li> </ul> ★重点取組校(1校)

# 高齢者の安全対策委員会

具体的施策		30年度取り組み方針
4-①	転倒予防に関する普及・啓発	<p><b>転倒予防の重要性に関する周知啓発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種調査において、介護が必要となった主な原因として、「骨折や転倒」が挙げられていることから、引き続き「要介護状態となる大きな要因が転倒であり、その後の生活に与える影響が大きいこと」について理解を得られるよう、様々な機会を通じて周知啓発を図る。</li> </ul> <p><b>転倒予防を意識して行う高齢者の増加へ向けた取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パンフレットの配付を継続し、転倒防止に向けた取り組みを意識して行う高齢者の増加を目指す。</li> </ul> <p><b>「溺死・溺水」予防の取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の溺死予防の取組を転倒予防パンフレットの一部改訂などにより、予防啓発を始めるとともに、対策の研究・検討も行なう。(新規)</li> </ul>
4-②	転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防	<p><b>介護予防事業の実施及び地域住民主体の活動の支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護予防に効果のある運動などを普及啓発する教室の開催や、個人、仲間同士で介護予防を行う意識の醸成、介護予防の専門講師派遣による地域住民主体の介護予防活動の支援に取り組む。</li> </ul> <p><b>地域で取り組まれる健康づくり活動の支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウォーキングやラジオ体操など、地域で取り組まれる健康づくり活動の支援に努め、自発的な活動参加者の増加を図る。</li> </ul>
4-③	虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催	<p><b>認知症の理解を深めるための機会の提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>誰もが認知症への理解を深めることができるよう、身近な地域で認知症に関する基礎知識が学べる認知症サポーター養成講座や医療・介護等の専門家による認知症予防地域講演会の開催に取り組むとともに、関係団体との意見交換を通して、効果的な学びの機会について検討していく。</li> </ul> <p><b>介護者の負担軽減を図るための支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護者の負担軽減を図るため、家族介護教室の開催や介護用品支給事業などの支援に取り組む。</li> </ul>
4-④	介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修	<p><b>職位や経験年数に応じた事業所職員向け研修の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護サービス提供事業所職員を対象とした研修がより効果的なものとなるよう、職位や経験年数（初任者、主任・リーダー、管理者、経営者別）に応じた内容で啓発を行うなどの工夫を行っていく。</li> </ul>
4-⑤	地域で高齢者を見守るネットワークの構築	<p><b>関係機関・地域と連携した虐待の早期発見・早期対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者虐待についての正しい知識の周知・啓発に取り組む。</li> <li>医療、介護、保健、福祉等の関係機関や団体及び地域と協力・連携し、虐待事案の早期発見・早期対応に取り組む。</li> </ul>

# 防犯対策委員会

具体的施策		30年度取り組み方針
5-①	自転車ツーロックの推進	<p><u>ツーロックの重要性を知る機会の拡大</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様なキャンペーンの実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>①場所や時間など効果的なキャンペーンの展開</li> <li>②駅やスーパーでの実施、校区行事等とのタイアップなど</li> </ul> </li> <li>周知広報の充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>①コミュニティ組織等と連携し、校区だより等での周知</li> <li>②各校区コミュニティセンター等へのチラシ・ポスター配布</li> </ul> </li> </ul> <p><u>他分野との連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全分野との連携</li> </ul>
5-②	青パト活動団体の拡大・連携強化	<p><u>青パト活動実施校区の拡大</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市補助事業による専用青パト導入及び活動費支援 ※全校区を目標</li> </ul> <p><u>青パト活動団体の連携強化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青パト活動団体の連携による合同パトロール実施</li> <li>毎月21日のパトロールの充実</li> </ul> <p><u>安全安心マップ（SC交通安全対策委員会）の活用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各校区が作成するマップを活用した巡回ルートの設定等</li> </ul> <p><u>青パト活動団体による他分野との連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夜間巡回時、反射材を使用していない歩行者等への啓発（交通安全分野／高齢者の交通安全）</li> </ul>
5-③	安全・安心感を高めるための地域環境の整備	<p><u>安全安心マップの活用</u></p> <p><u>各実施者の連携による地域環境の整備</u></p> <p><u>街頭防犯カメラ設置による安心感の向上</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>警察・地域と連携した街頭防犯カメラ設置の推進</li> </ul> <p><u>幹線道路や主要な集落間道路への照明設置</u></p>
5-④	暴力団壊滅市民総決起大会等の開催	<p><u>市民総決起大会等の実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>暴力団情勢等に応じた大会、会議の開催</li> </ul> <p><u>市暴力追放推進協議会による各校区暴追協への支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各校区暴追協が行う自主的な暴追活動に対し、補助金交付、啓発物品配布などを継続実施</li> </ul>
5-⑤	児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施	<p><u>年齢に応じた教室・教育の実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>非行防止教室や薬物乱用防止教室の機会を活用</li> </ul> <p><u>日常的な啓発・教育活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校区暴追協による校区行事等での啓発活動</li> </ul> <p><u>【5-②関連】合同パトロールの実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>非行防止の観点を持ってパトロールを実施</li> </ul>
5-⑥	犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発	<p><u>犯罪の動向に応じた情報提供の実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>街頭啓発や出前講座により最新の手口等を周知</li> <li>広報媒体による注意喚起</li> </ul> <p><u>より多くの方に周知できる方策の検討・実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>啓発ツールの検討、各種団体等との連携</li> </ul>

# DV 防止対策委員会

具体的施策		30 年度取り組み方針
6-①	男女共同参画・DV防止に関する啓発の充実	<u>男女共同参画、DV防止に関する講座の実施</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女平等推進センターや地域にて実施</li> <li>・男女共同参画サポーターによる地域啓発講座の実施</li> </ul>
6-②	教育現場等における予防教育の充実	<u>教育現場等でのデートDV防止講座の実施</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学、高校、大学などのDV予防教育の中で、対策委員会の団体等と連携して、デートDV防止講座を実施</li> </ul>
6-③	パープルキャンペーンの実施	<u>他の対策委員会と連携したDV防止啓発の実施</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童虐待防止対策委員会と連携した「オレンジ&amp;パープルリボン」の作製及び啓発</li> <li>・他分野との連携により、様々な機会を捉え、広く市民にDV防止の理解及び取り組みの推進を意識付ける。</li> </ul> <u>「パープルリボン啓発活動」を実施</u> <u>パープルツリー等の展示による啓発</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パープルツリーや懸垂幕、パネル展示等、様々な方法による「パープルリボン」の普及啓発と「女性に対する暴力をなくす運動」を通じたDV防止の意識醸成を行う</li> <li>・対策委員会委員や民間団体、若者等と協働し、パープルツリーの展示にあわせたキャンペーンを行う</li> </ul>
6-④	医療関係者に対する研修の強化	<u>医療関係者に対するDV被害者支援研修の実施</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療関係者が、DV被害者の早期発見と速やかに関係機関につなぐことを目的として、対策委員会の医師会と連携し、医療関係者等への研修を実施</li> </ul>
6-⑤	子どもに関わる業務に携わる職務関係者に対する研修の充実	<u>DV問題についての意識を促すための研修の充実</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関、団体への研修実施の働きかけを行い、保育所・幼稚園・学校関係者、民生委員・児童委員等への研修を実施</li> <li>・男女平等推進センター主催講座の情報提供と参加の呼びかけ</li> </ul>

# 自殺予防対策委員会

具体的施策		30年度取り組み方針
7-①	ゲートキーパー研修	<p><u>ゲートキーパー研修対象者の拡大</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゲートキーパーの浸透を図るため、より一層の対象者拡大と地域への継続した働きかけを行う。</li> <li>こころの相談カフェを開催している岩田屋職員へのゲートキーパー研修の実施を検討</li> </ul>
7-②	かかりつけ医と精神科医の連携強化	<p><u>医療機関と連携したうつ病患者等の実態把握</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かかりつけ医から精神科医へ紹介された患者の実態把握及び研修会等を継続実施する。</li> <li>研修会の開催にあたっては、医師会事業との更なる連携を図っていく。</li> </ul>
7-③	自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施	<p><u>各団体と連携した普及啓発</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自殺予防週間や自殺対策強化月間などの機会を捉えて、全ての市民が支え合うという視点を持って暮らすことを目指し、各団体や委員と連携し、普及啓発活動に取り組む。</li> <li>セーフコミュニティ自殺予防対策委員会で作成したしおりの効果的な活用を検討・実施する。</li> </ul>
7-④	民間団体と協働した相談の実施	<p><u>ハローワーク相談会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に自殺者の多い30～50代の働き盛り世代や無職者層を中心とした相談会の実施を継続していく。</li> </ul> <p><u>こころの相談カフェ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度に続き、岩田屋久留米店、中央図書館での相談窓口を継続する。また、相談者がより利用しやすいよう、中央図書館での相談窓口を拡充する。</li> </ul>
7-⑤	生活困窮者からの相談支援	<p><u>関係機関と連携した相談支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>久留米市庁舎内外に案内リーフレット配布する。</li> <li>高齢（地域包括支援センター）部門、障害部門と相互連携する。</li> <li>ハローワーク他の就労支援機関等と相互連携する。</li> <li>必要に応じた関係機関（各支援窓口、医療機関、就労支援等）と相互連携する。</li> </ul>

# 防災対策委員会

具体的施策		30年度取り組み方針
8-①	定期的な防災研修・訓練・啓発の実施	<u>自主防災活動の活性化・若年層の参加促進</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災活動の活性化に向けた研修メニューの検討</li> <li>・地域の防災訓練などへ若年層など幅広く参加・啓発を促進（新規）</li> </ul>
8-②	防災に精通しているリーダーの育成	<u>防災士が活躍できる環境の整備</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各校区の自主防災組織における防災士の位置づけを明確にし、地域で活躍できる環境を整える。</li> </ul>
8-③	名簿登録推進にむけた積極的な情報提供	<u>名簿の有効活用・登録促進に向けた見直し</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時要援護者名簿の見直し(名称、対象者、提供先など)実施</li> <li>・上記見直しを受けて、現在の名簿登録者に同意取得</li> <li>・名簿登録対象者（障害者・要介護認定者）への登録促進</li> </ul>
8-④	災害時要援護者個別支援計画作成	<u>個別支援計画の具体化促進と訓練実施</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・凶上訓練による個別支援計画の具体化促進の継続（10校区程度の実施）</li> <li>・地域の自主的な訓練実施に向けた研修の実施</li> <li>・重度の障害者等に対する個別支援計画策定の試行</li> </ul>
8-⑤	地域の避難計画を作成	<u>関係団体と連携したマップ作成及びマップ活用による取組強化</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の対策委員会と連携したマップの作成</li> <li>・コミュニティ組織や校区の関係団体との連携</li> <li>・作成したマップを活用した各種取組強化・環境改善</li> </ul>

## 広報啓発活動について

### ① 平成29年度広報啓発活動の実績

- セーフコミュニティ標語の募集（798作品の応募）
- セーフコミュニティフェスタの開催（台風接近のため中止）
- 広報くるめの掲載（計6回）
- 出前講座の開催（2回計50名）
- 毎月21日重点取り組みの推進
  - ・子どもの見守り活動、児童による朝の校内放送
  - ・田主丸有線放送、庁内放送、のぼり旗の設置
  - ・防災ラジオ自動起動放送
  - ・全校区防災情報伝達訓練（6月／12月）
  - ・青パトによる合同パトロールの実施（7月／12月／3月）
  - ・SC通信の発行（1,000名送信）
- セーフコミュニティオリジナル「くるっぱ反射材」の配付
- ロールスクリーンの設置
- キラリ補助金活用団体への周知と毎月21日の活動依頼
- JR久留米駅ほとめき広場でのパネル展示
- 他自治体（議会）からの行政視察対応（9回計45名）
- ドリームスFM「ほとめき街道ちっこ」への出演
- 日めくりカレンダーの配付（1,000部）
  - ・市役所全課／小中学校／学童保育所／警察署（交番）／久留米広域消防本部（消防署）
- ゲートキーパー啓発しおりの作成（SC実態調査結果を受けて）



（久留米市交通安全協会作成）  
SCロゴ入りのランドセルカバー



（大善寺まちづくり振興会・交通安全協会大善事支部作成）  
SCロゴ入りチラシ

### ② 平成30年度広報啓発活動の方針

- セーフコミュニティ標語の募集（5月21日～8月31日）
- 広報くるめへの関連記事掲載（再認証に向けてこれまでの取り組み成果を紹介）
- 出前講座の実施（対象者の年齢に応じて内容を見直す）
- チラシ・パンフレットの作成
- 日めくりカレンダーの配付（企業や医療機関など配布先の新規開拓）
- セーフコミュニティフェスタの開催（12月8日）
- 地域・関係団体・企業と連携した啓発物の作成・配付



（自殺予防対策委員会作成）  
ゲートキーパー啓発しおり



相談窓口一覧を掲載した日めくりカレンダー



## セーフコミュニティ再認証取得等について

平成29年10月23日・24日

### 再認証事前指導

※海外審査員2名を招へいし、対策委員会のプレゼンを実施



平成30年2月28日

再認証申請手続き開始のための市長直筆による書簡の提出



○3月～4月 各対策委員会

【庁内会議】

○5/8 調整会議

○5/17 本部会議

○5/29 SC協議会(予定)

○国際 SC 認証センターへ

・再認証申請書

・プレゼン資料

(6月提出予定)



平成30年7月30日(月)～31日(火)

### 再認証現地審査

※海外審査員2名を招聘し、対策委員会のプレゼンを実施

【正審査員】ベ・ジョンイ氏(韓国)／【副審査員】クストフ・ダラル氏(カザフスタン)



平成30年12月8日(土)

### 再認証式典の開催(予定)

※セーフコミュニティフェスタ2018と同時開催



## 審査員プロフィール

氏名: ジョンイ・ペ (Jeongyee BAE) 博士 (Ph.D)

所属: インジェ大学 (韓国釜山市)

肩書:

- ・ インジェ大学 教授 (看護学)
- ・ 韓国 公衆安全省 政策アドバイザー
- ・ 韓国 釜山市消防本部 心理支援センター ディレクター
- ・ 釜山市西区 精神保健センター ディレクター 他



### 経歴

ソウル大学看護学部にて修士号を修得後、梨花女子大学にて博士号を修得 (看護学)。2005年には、米国ワシントン大学にて客員研究員として経験を積む。

セーフコミュニティ (あるいは安全・安心) に関する分野においては、10年の経験を有しており、現在はインジェ大学国際セーフコミュニティ研究機構のセンター長である。

韓国内においては、7つの自治体 (世宗市、亀尾市、蔚山広域市南区、大邱広域市寿城区、釜山広域市、釜山広域市沙下区) の支援を行っている。特に、釜山市においては、セーフコミュニティリサーチセンターのディレクター (2011年～) であり、認証プロジェクトのプログラムリーダーとしてかかわっている (2009年～)

2014年からは国際認証審査員としての役割を担っており、主審査員及び副審査員としてこれまで15自治体の審査を担当している。

氏名: クストス・ダラル (Koustuv DALAL) 博士 (Ph.D)

所属: エレブルー (Orebro) 大学 (スウェーデン)

肩書:

- ・ 国際セーフコミュニティ認証センター シニアアドバイザー
- ・ エレブルー大学 外傷予防・安全向上センター ディレクター
- ・ 健康及び家庭福祉省公衆衛生機構 (インド 西ベンガル州) 機構長 (学術分野担当)



### 経歴

ダラル氏は、カロリンスカ医科大学 (スウェーデン) で博士課程を修得後、同大学で経験を積んだ後、現大学において安全・安心に関する研究を行う。健康経済学分野での豊かな経験を積んでおり、外傷予防・安全向上の専門家として、200本を超える論文を執筆するとともに、複数の国において、30の修士・博士課程のコースを開発してきた。また、複数の国際的な外傷予防・安全向上に関する学会誌の編集を担当している。

また、セーフコミュニティに関しては、セーフスクール、セーフホスピタルなどを含み52以上の国においてかかわってきており、日本においては、2016年に泉大津市の認証審査を担当した。

## <認証申請書類の構成概要>

### (1) 認証申請書 様式 A <認証機関指定の統一様式>

セクション A	久留米市の概要
セクション B	市の構造
セクション C	指標 1：分野を超えた協働を推進する組織
セクション D	指標 2：全ての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動
セクション E	指標 3：ハイリスクのグループや環境に焦点を当てた予防活動
セクション F	指標 4：入手及び活用可能な根拠に基づいたプログラム
セクション G	指標 5：外傷や事故の頻度と原因を継続的に記録する仕組み
セクション H	指標 6：予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組み
セクション I	指標 7：国内・国際的なネットワークへの継続的な参加

### (2) 認証申請書（補足説明書）<当市独自様式>

第 1 章	久留米市の概要
第 2 章	死亡やけが・事故などの状況
第 3 章	7つの指標に基づいた取り組み 指標 1：分野を超えた協働を推進する組織 指標 2：全ての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動 指標 3：ハイリスクのグループや環境に焦点を当てた予防活動 指標 4：入手及び活用可能な根拠に基づいたプログラム ※8 対策委員会ごとに掲載 指標 5：外傷や事故の頻度と原因を継続的に記録する仕組み 指標 6：予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組み 指標 7：国内・国際的なネットワークへの継続的な参加
第 4 章	これまでの取り組みの成果
第 5 章	セーフコミュニティ活動の長期展望

### (3) 現地審査用プレゼン資料 <当市独自様式>

- 市全体説明
- 外傷等動向調査委員会の説明
- 8つの対策委員会毎の説明

\*事前指導で使用了資料をベースに最新のデータや事前指導での助言等を反映

再認証現地審査 スケジュール【案】

	1日目 7月29日(日)	2日目 7月30日(月)	3日目 7月31日(火)	4日目 8月1日(水)
9:00		市長表敬	⑦ 対策委員会 プレゼン シティプラザ	
10:00	審査員 久留米入	① 市の概要説明 本庁舎401	↓ 移動	審査員 久留米発
11:00		② 対策委員会 プレゼン 本庁舎401	⑧ 対策委員会 プレゼン 活動視察	
12:00	市内案内	↓ 移動	↓ 移動	
13:00		昼食	昼食	
14:00		③ 対策委員会 プレゼン シティプラザ	↓ 移動	
15:00	○高良山 ○耳納北麓 など	④ 対策委員会 プレゼン 活動視察	⑨ 対策委員会 プレゼン シティプラザ	
16:00		↓ 移動	⑩ 対策委員会 プレゼン シティプラザ	
17:00		⑤ 対策委員会 プレゼン シティプラザ	審査員ミーティング	
18:00		⑥ 対策委員会 プレゼン シティプラザ	講評 シティプラザ	
19:00				○市の概要説明プレゼン ○外傷等動向調査委員会プレゼン ○8対策委員会プレゼン(うち活動視察2つ程度) プレゼンは、発表と質疑を合わせて1時間とする

## 再認証式典及びセーフコミュニティフェスタ 2018（案）について

日	時	平成30年12月8日（土）
会	場	久留米シティプラザ（六角堂広場・久留米座・展示室）

## ◆ 第1部 セーフコミュニティフェスタ（午前11時～午後4時）

- 1 開 会
- 2 セーフコミュニティ標語表彰式
- 3 ステージパフォーマンス

※活動団体による体操・音楽演奏・寸劇・ダンスなど  
 ※転倒予防体操、交通安全講座など

- 4 体験コーナー

※白バイ・ミニパト・消防車試乗体験、ミニ制服写真撮影など  
 ※自転車シミュレーター・アルコール体質チェックなど

- 5 パネル展示  
 ※対策委員会ごとブースを設置

## ◆ 第2部 セーフコミュニティ再認証式典（午後2時～午後4時）

- 1 開 会
- 2 記念演奏（市内保育園児・消防署音楽隊または警察音楽隊）
- 3 アトラクション
- 4 合意書署名（正審査員）
- 5 認証報告
- 6 認証盾・認証旗授与
- 7 認証センターメッセージ（副審査員）
- 8 式 辞
- 9 来賓紹介
- 10 祝電披露
- 11 閉 会



## ◆ 第3部 祝賀会

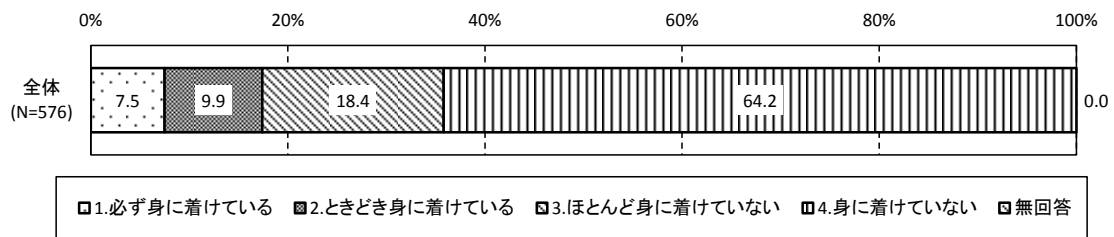
平成29年度久留米市セーフコミュニティに関する実態調査の結果について

<実態調査概要>

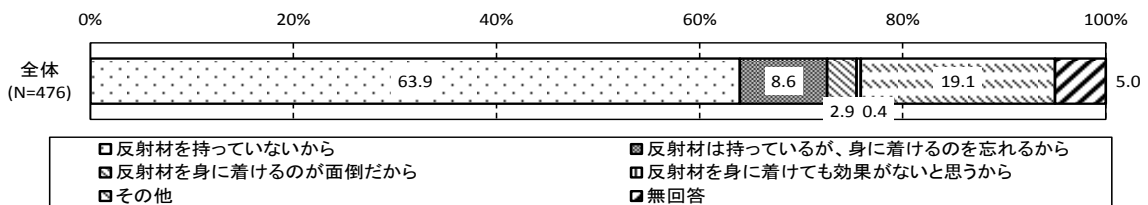
調査サイクル	3年毎（過去 H23, H26 年度実施）
調査対象者	市内在住の17歳以下、18～64歳、65歳以上の3区分3,500人
調査方法	住民基本台帳から層化二段無作為抽出 調査票配布、回答回収とも郵送
調査期間	平成29年8月17日～8月31日
回収結果	17歳以下 574/1000 有効回収率 57.4% 18～64歳 703/1500 有効回収率 46.9% 65歳以上 727/1000 有効回収率 72.7% 合計 57.3%

<主な調査結果>

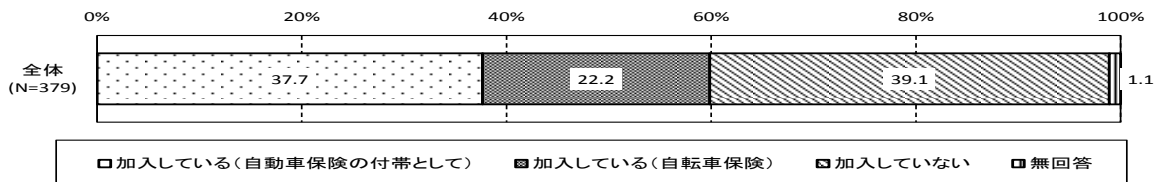
①高齢者の交通安全 ⇒ 高齢者が夜間外出する際の反射材の着用状況



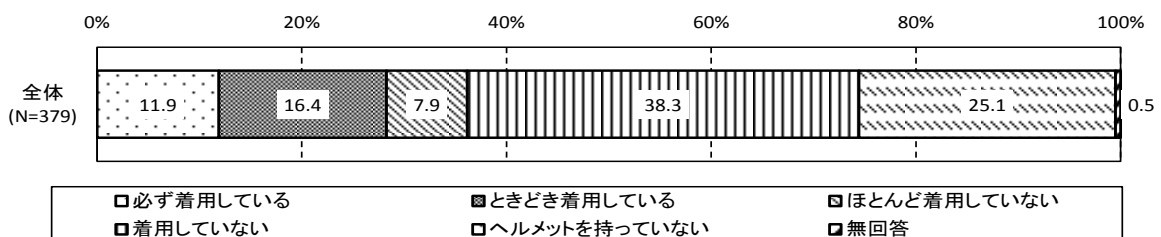
高齢者が夜間外出する際に反射材を着用しない理由



②自転車の交通事故 ⇒ 17歳以下の自転車利用者の保険加入状況

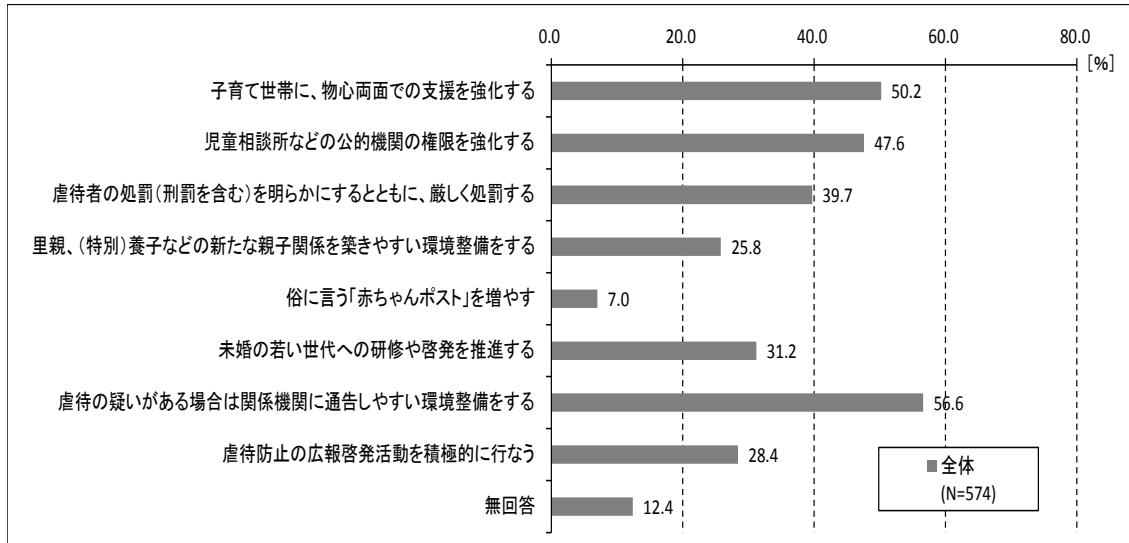


自転車運転時のヘルメットの着用状況

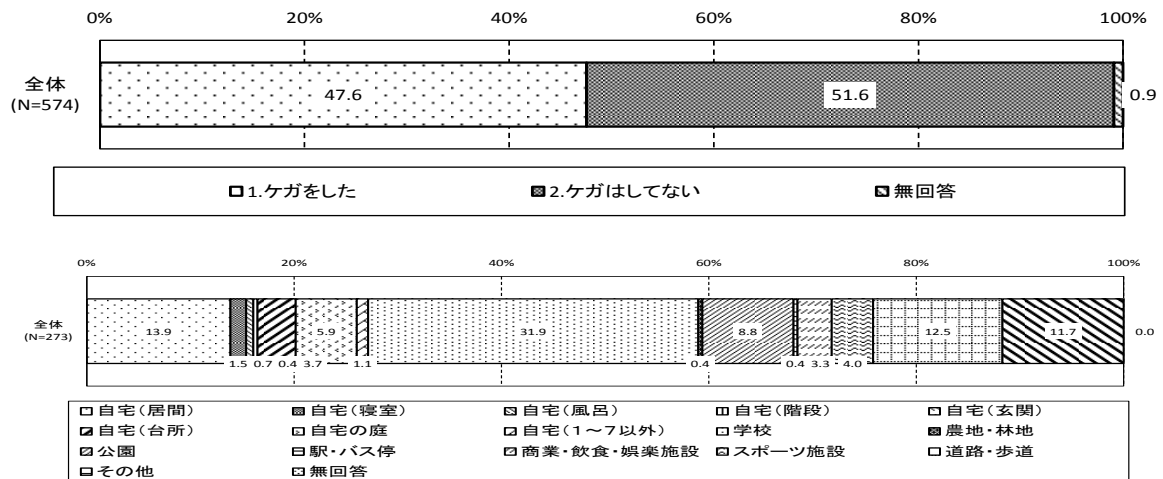


### ③児童虐待防止 ⇒ 17歳以下の子どもがいる保護者が考える児童虐待防止の有効な手段

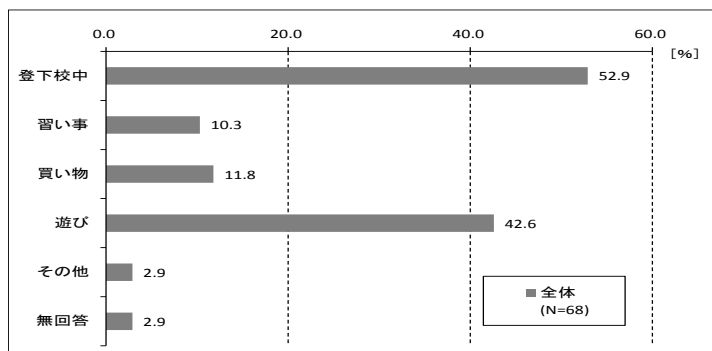
(複数回答)



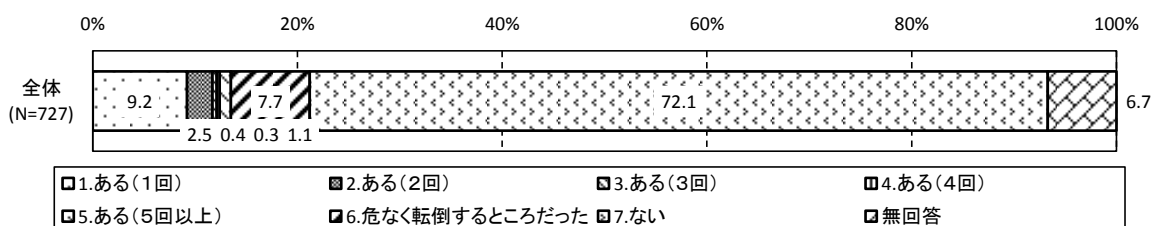
### ④学校の安全 ⇒ 17歳以下のこどもの過去1年間のケガの有無とケガした場所



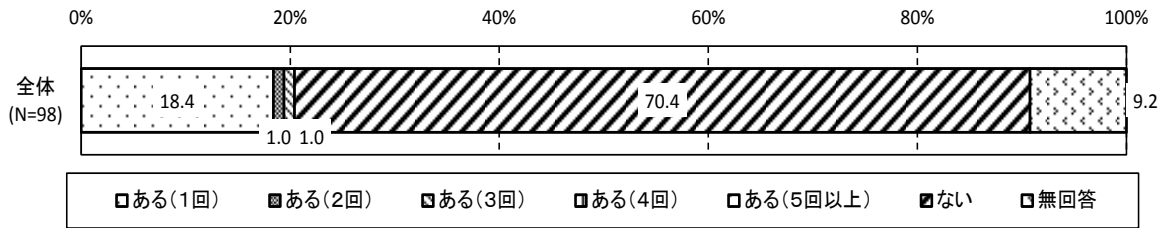
### 交通事故にあいそうになった状況 (複数回答)



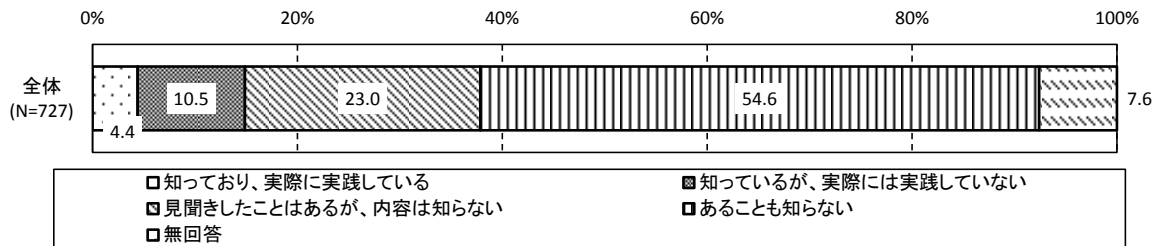
### ⑤高齢者の転倒予防 ⇒ 高齢者の過去1年間の自宅での転倒経験



### 転倒した高齢者が骨折した回数

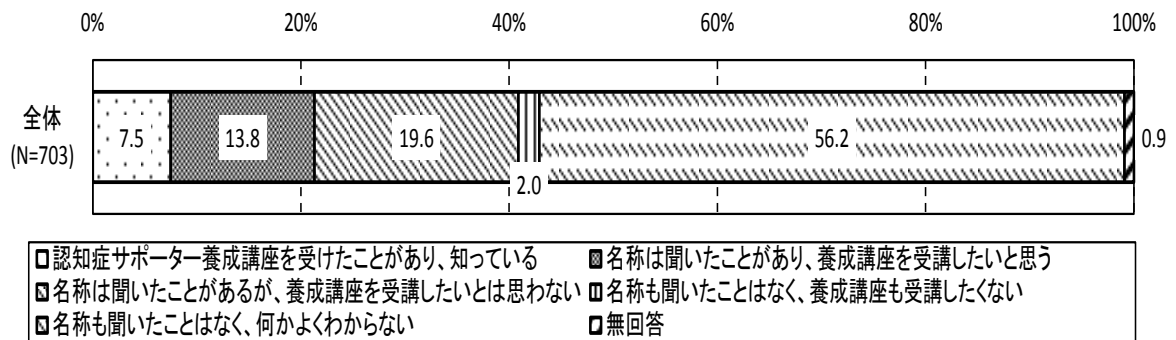


### 「転倒予防パンフレット」に関する高齢者の認知度

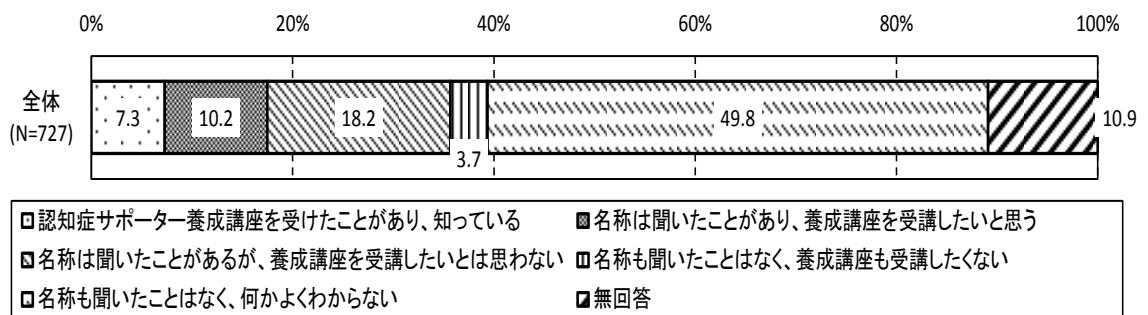


### ⑥高齢者虐待の防止 ⇒ 認知症サポーターの認知度

(18～64 歳以下)

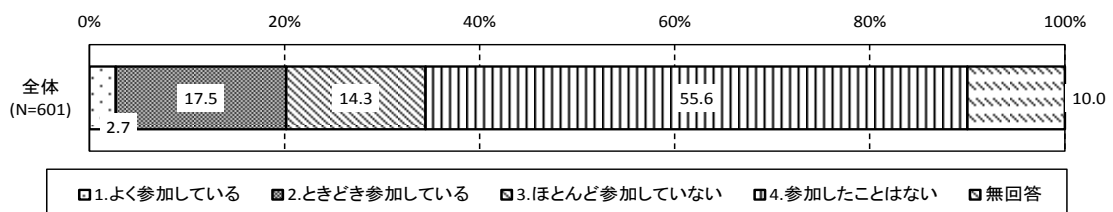


(高齢者：65 歳以上)



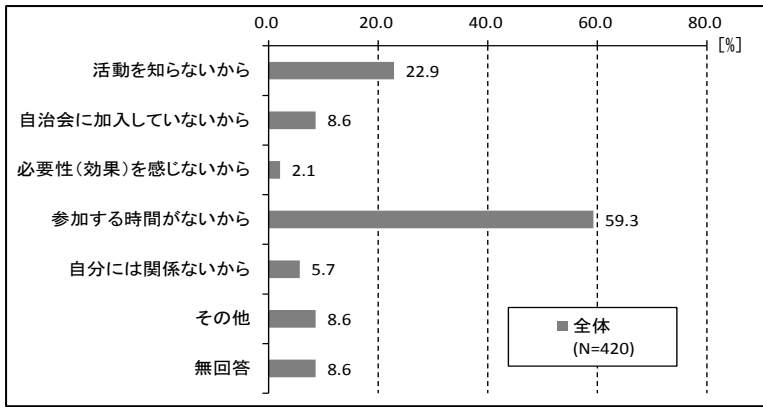
### ⑦犯罪の防止・防犯力の向上 ⇒ 居住地域で行なわれている防犯活動への参加状況

(18～64 歳以下)



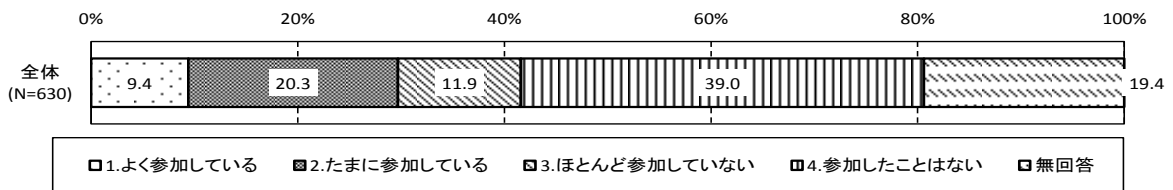


**居住地域の防犯活動に参加しない理由（複数回答）**

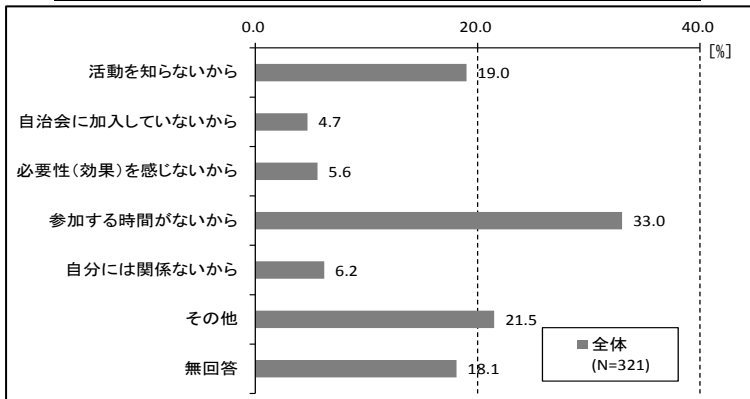


(高齢者：65歳以上)

**居住地域で行なわれている防犯活動への参加状況**

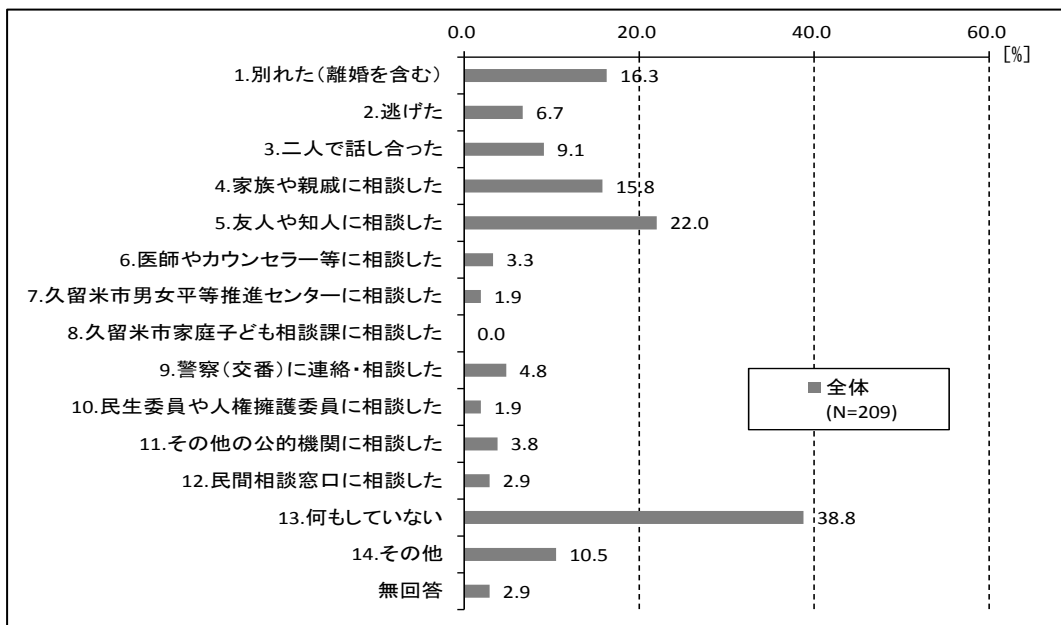


**居住地域の防犯活動に参加しない理由（複数回答）**

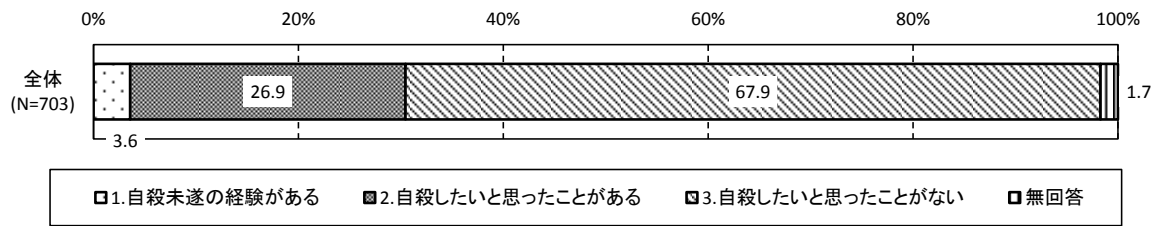


**⑧DV防止・早期発見 ⇒ 18～64歳で、過去にDV被害を受けた又は見聞きした経験のある**

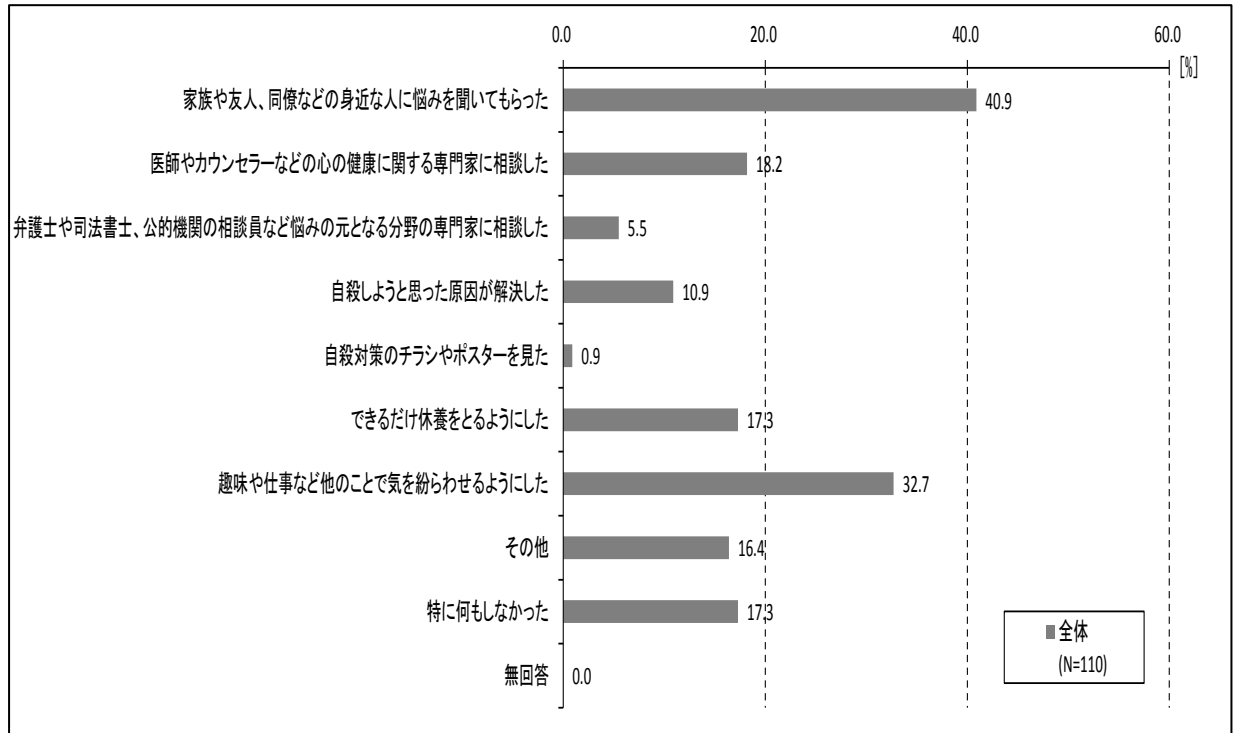
**人のその後の対応（複数回答）**



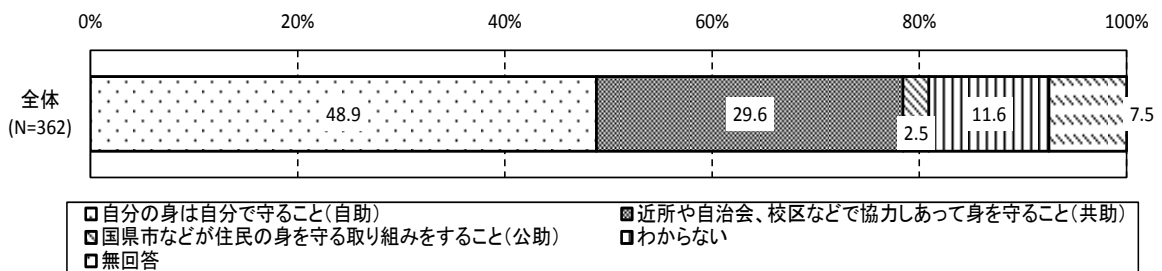
⑨自殺・うつ病の予防⇒ 18～64歳の過去の自殺未遂等の経験の有無など



自殺したいと思った人が思いとどまった理由（複数回答）



⑩防災 ⇒小学1年生～17歳以下で、自然災害から身を守るために一番重要なものの認識



地域で行なう自主防災組織主催の避難訓練や講演会等への参加状況

